

阪大 一地域に生き世界に伸びる一

# NOW



OSAKA UNIVERSITY

2009

08

No.112



トピックス

## 大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会

大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所  
開設記念シンポジウム及び記念式典・祝賀会

クローズアップ

ラーニング・コモンズ

—TeachingからLearningへ ReadingからLearningへ—

目次

トピックス	2
クローズアップ	4
役員室だより	8
ナウスペシャル	22
キャンパスニュース	24
記念講義	41
表彰等	42
人事	44
訃報	45
インフォメーション	47
ガイドマップ	55
海外拠点だより	56
交流協定大学	58
クラブ&サークル	59
トピックス	60



表紙写真：前栽（適塾）

適塾1階部分の一番奥には、客座敷と、緒方洪庵が家族と起居していた家族部屋があり、それらの部屋は緑豊かな前栽に面している。大阪の中心部にもかかわらず、江戸時代の町屋の風情を感じさせる場所となっている。（上の写真は家族部屋から見た前栽）

表紙デザイン：株式会社ココティエ

## 大阪大学司馬遼太郎記念

6月13日(土)、大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会が開催されました。

本講演会は、大阪外国語大学の卒業生である作家の司馬遼太郎氏の業績を偲び、その遺産を継承するため、学生及び一般市民を対象として、比較文明的な視点から日本を論じる記念学術講演会として開催されており、大阪外国語大学が大阪大学と統合したことにより、本講演会については、そのまま大阪大学主催事業として引き継がれ、名称も「大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会」として本年第12回目の開催を迎えました。

本年は、6月13日(土)、リニューアルされたサンケイホールブリーゼにおいて、「現代を生きる家族」をテーマに開催され、約900名が来場されました。

第1部では、評論家の松本健一氏と、作家で脚本家の山田太一氏をお招きし、司馬遼太郎の研究を手掛けておられる松本健一氏は「日本の青春と閉塞の時代 - 『坂の上の雲』にふれて」と題して講演され、続いて、山田太一氏が「家族の肖像」と題して講演されました。両氏は、司馬文学を分析するとともに、現代社会における家族、家族観について言及されました。

詳細は、キャンパスニュース(25ページ)をご覧ください。

## 大学院大阪大学・金沢大学・開設記念シンポジウム及び



シンポジウム（会場：グランキューブ大阪）

## 学術講演会「現代を生きる家族」



松本健一氏



山田太一氏

## 浜松医科大学連合小児発達学研究所 記念式典・祝賀会

本年4月に設置された大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所（博士後期課程 入学定員10名）の開設を記念したシンポジウム、式典・祝賀会が7月4日（土）に開催されました。

グランキューブ大阪で開催されたシンポジウムでは、杉山登志郎あいち小児保健医療総合センター保健センター長による「子どもの臨床と精神医学」と題した記念講演に続き、「子どものこころの発達を支える新しいアプローチ」をテーマとして辻井正次中京大学教授、大井 学本研究所副研究科長等4名による講演が行われ、大学関係者や一般市民約300名が熱心に聞き入りました。

詳細はキャンパスニュース（33ページ）をご覧ください。



遠山研究科長の式辞



式典・祝賀会（会場：リーガロイヤルホテル）

# Learning Commons

ラーニング・commons

## Teaching から Learning へ Reading から Learning へ



大阪大学附属図書館

附属図書館4館のうち、総合図書館（豊中キャンパス）と理工学図書館（吹田キャンパス）の耐震改修工事が竣工しました。これを機に、附属図書館の一角に新たに設置した「ラーニング・commons」を中心にご紹介します。

### 「学びの場」、「創造の場」、「発想の場」

ラーニング・commonsとは、自主的、自立的な学習活動を支援するため、図書館が所蔵する図書や雑誌と電子ジャーナルやデータベースなどの新しい電子資料の双方を自由に利用できる、ネットワーク環境が整った共有の空間（commons）です。

ラーニング・commons以外ではこれまでと同様に静かな学習・研究環境が維持される一方、ここは学生また教員が互いにコミュニケーションを取り合い、共に考え、ディスカッションする主体的な「学びの場」であり、「創造の場」「発想の場」でもあります。

21世紀の大学教育は、Teaching から Learning へ大きく変化をしているといわれます。教育・研究を支えることを最大の役割とする図書館では、従来の講義中心の授業法とは異なる自主的な課題解決型学習を支援するため、この度「ラーニング・commons」を開設しました。

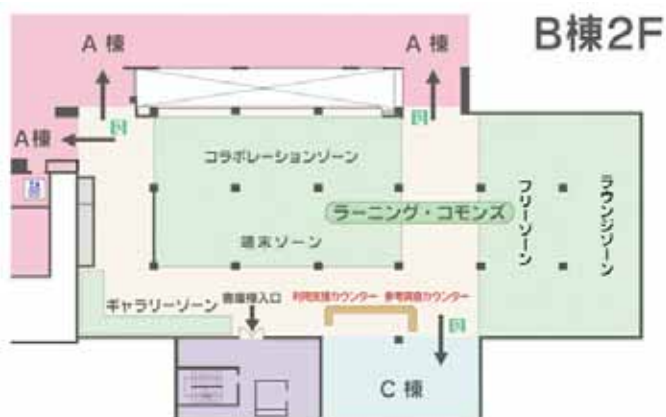
このように本格的なラーニング・commonsは、国立大学でも先駆的事例として注目を集めています。

### 総合図書館

#### スタイルに合わせて利用できる空間

総合図書館B棟2階のラーニング・commonsは、コラボレーションゾーン、端末ゾーン、フリーゾーン、ラウンジゾーンの4つのゾーンに区画され、学生、教員、職員の創造的な発想により、さまざまなかたちで自由に利用することができます。

コラボレーションゾーン、端末ゾーンには、Windows と Mac のパソコンを設置し、主にグループワークのための利用に適しています。



ラーニング・commonsの4つのゾーン（総合図書館）



ラーニング・commonsの利用風景（総合図書館）

フリーゾーン、ラウンジゾーンには、組み合わせが自由になるテーブルと椅子を設置し、一人から多人数まで状況と必要に応じて利用することが可能です。このゾーンには全学のコミュニケーションツールとしての103インチの大型ディス

プレイ O+PUS (Osaka university + Panasonic Universal Sight) も設置され、大学からの情報が配信されています。

ラーニング・commonsのオープンにあわせて、ノートパソコンやプロジェクターの貸出も開始しました。

## ディスカッション - コミュニケーションを活用した協調型学習

ラーニング・commonsではグループでのディスカッションが活発に行われています。人数によってテーブルと椅子も組

み替えが自由です。備え付けのホワイトボードや、無線LANに接続可能な貸出ノートパソコンを使えば、グループ討論も充実します。

また、学習や研究に必要な図書や雑誌も、図書館内に完備しており、資料調査に必要な辞書、事典類の参考図書もA棟の同じフロアにあってシームレスに利用ができ、電子ジャーナル、電子ブック、データベース等のネットワーク上の情報源にもその場ですぐにアクセスできます。

ディスカッションでまとめたメモやプレゼンテーション原稿は、近くにあるプリンタに出力して、配布し、さらに議論を深めることが可能です。

ラーニング・commonsはオープンスペースです。グループ同士が互いに交流し、ディスカッションの輪が広がります。ラーニング・commonsは学生や教員が出会い、刺激しあう場所でもあります。



活発なディスカッション（総合図書館）

## 「学び」のサポーター - TA と図書館員

図書館内に設置されたラーニング・commonsの最大の魅力は、「人による」学びのサポートがあることです。

ラーニング・commonsには、TA (Teaching Assistant ティーチング・アシスタント) と呼ばれる大学院生と、図書館員の両方が待機しています。TA と図書館員がチームを組んで、利用者をバックアップする体制がとられています。

TA は図書館での資料収集や調査の経験を通じて助言することにより他の学生を支援するとともに、将来の教員としての

自らの能力を向上させています。また、図書館員は図書館の基本的な使い方や他の図書館の利用相談、参考図書、各種データベースや電子ジャーナルの使い方などのアドバイスをします。

オレンジ色のエプロンをつけたTA と図書館員による チーム 阪大図書館 のサポートを受けて学習や研究ができる空間が、ラーニング・commonsです。

TA(ティーチング・アシスタント)担当表		7月 ~								
祝日	月	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
	21 火	文	文	文	文		理	理	理	
	22 水	文	文				文	文	文	
	23 木		文	文	文		理	理		
	24 金	経	経	経	経	経				

○土・日・祝及び授業休業期間は不在です。

TAの担当時間割表（総合図書館）  
各TAの所属研究科が表示されている



TAによるアドバイス（総合図書館）

もっと便利に、もっと快適に - 周辺施設と図書館のアメニティー



グループ学習室（総合図書館）

ラーニング・commonsの周辺施設としてグループ学習室やサイレントゾーンを提供しています。

B棟3階は、サイバーメディアセンター情報教育システムのWindows系端末とマルチメディア端末が設置され、WebCT等の利用や海外衛星放送の視聴ができます。また、グループ学習室にはスクリーンが設置されており、パソコン、プロジェクターを利用した本格的なプレゼンテーションや少人数のゼミに利用できます。

また、ディスカッション中心のラーニング・commonsに対して、静かに一人で集中するサイレントゾーンをB棟4階に設けています。このゾーンには個人ブースも設置しており、小さなスペースですが、特別な個人空間を提供しています。ここではパソコンの使用を禁止しています。

ラーニング・commonsやマルチメディアネットワークゾーン、サイレントゾーンを上手に活用し、A棟正面玄関横のラウンジでコーヒープレイクをしながら、図書館に長時間滞在する利用者も増えています。また、C棟東玄関側にあるペットボトルの自動販売機で購入した飲み物は、館内に持ち込むことが可能です。

理工学図書館

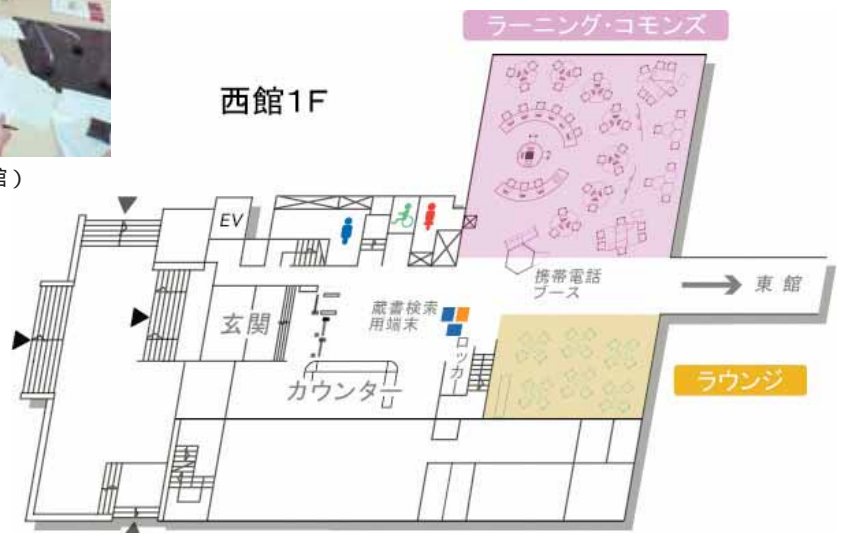
ラーニング・commons



ラーニング・commonsの利用風景（理工学図書館）

理工学図書館は、工学部2回生以上が利用者の中心となる専門図書館です。

西館1階には、ラーニング・commonsとラウンジがあります。落ち着いた雰囲気の中で利用されている理工学図書館のラーニング・commonsの特色は、同心円状のレイアウトです。中心にいるTAの支援を受け学習を進めることができます。



## ラウンジ



ラウンジ（理工学図書館）

ラウンジは、リラックスして新聞や新着雑誌を閲覧できるくつろぎの空間です。

入口にはディスプレイを設置し、研究個室やグループ学習室の予約状況、図書館からのお知らせを流しています。

また、ラウンジ内部には全学コミュニケーションツールとしての58インチのディスプレイO+PUSを設置しています。

今後、ラウンジを活用したさまざまなイベントを開催予定です。

## 図書館ホールとグループ学習室

西館3階の図書館ホールは、100人の収容が可能で、授業、講演会、セミナー、学会、研究会等に利用されています。

西館2階には、12席のグループ学習室が3室と24席の会議・研修室を設置しています。部屋ごとにテーブルと椅子のデザインが異なり、用途に合わせて配置を変えることが可能です。貸出用パソコン、スクリーン、プロジェクターを利用して、グループ学習やプレゼンテーションに活用できます。

全体会議を図書館ホールで、分科会を会議・研修室やグループ学習室で行うなど一体化して使用することもできます。

また、ポスターセッションの実施を考慮し、館内各所にピクチャーレールを用意しています。



図書館ホール（理工学図書館）



ピクチャーレールを活用した展示（理工学図書館）



グループ学習室（理工学図書館）

大阪大学附属図書館では、新しい学習・教育研究支援の場「ラーニング・commons」を活用し、自主的な課題解決型学習を支援するために教員との連携を深めています。今後も学術情報基盤を整備し、さらなる図書館機能の充実に努めます。

# 役員室だより

2009.8 Vol.31

## 大学の動き

### 第一期中期目標期間終了時における 組織及び業務全般の見直し

平成21年度で第一期中期目標期間が終了することに伴い、文部科学省から各国立大学法人に対して、暫定評価の結果や各法人独自の取組状況などを踏まえた組織及び業務全般の見直しが通知されました。これは各国立大学法人がより一層の使命、役割を果たすよう社会から期待されていることから、平成22年度からの第二期に向けて第一期を総括し自主、自立的に改善することを求められているというものです。

具体的には、大学院の組織・定員等の見直し、教育研究の質の向上、法人運営の改善・効率化などです。本学としてはこの通知を踏まえ、第二期中期目標・中期計画の素案を策定しました。

### 平成22年度概算要求事項

平成22年度概算要求については、工学研究科修士入学定員の増をはじめとした学部・大学院組織等の整備、教育研究活動のさらなる充実発展のための特別経費などについて、6月30日に文部科学省に提出しました。

(要求事項の一覧は9～10ページに掲載しています。)

なお、平成22年度概算要求から従来の特別教育研究経費が廃止され、「特別経費」が新設されました。「特別経費」には(1)プロジェクト分、(2)全国共同利用・共同実施分、(3)基盤的設備等整備分などの区分が設けられました。

特に「(1)プロジェクト分」については、従来の要求区分「教育改革」「研究推進」「共同利用・共同研究拠点」「連携融合事業」に代わり、各法人が下記6項目のうちから最大4項目を選択し、選択した項目の趣旨を達成するためのプロジェクトについて要求するという仕組みとなり、大阪大学においては、「 」印の4項目を選択しました。

国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実  
高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実  
幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実  
大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実  
産学連携機能の充実  
地域貢献機能の充実

(但し継続事業については、平成23年度までは項目の制限なし。)

なお、「(2)全国共同利用・共同実施分」については文部科学大臣が認定する共同利用、共同研究拠点等における各種プロジェクト等を支援する経費、「(3)基盤的設備等整備分」については、各法人が策定する「設備マスタープラン」に基づき、基盤的設備の計画的整備等を支援する経費として要求しています。



平成 22 年度概算要求事項（大阪大学 文部科学省）

区 分	事 項 名	備 考
<b>【特別経費】</b> （「特別経費」の事項名称における太斜字は継続分を示す。）		
学部・大学院組織等整備		
医 学 部	学部入学定員の増(5名増)	新規
医 学 部	学部収容定員の増(3年次編入 2年次編入(9月))〔10名増〕	新規
高 等 司 法 研 究 科	修士入学定員の減(20名減)	新規
薬 学 研 究 科	修士入学定員の減(10名減)	新規
工 学 研 究 科	修士入学定員の増(248名増)	新規
基 礎 工 学 研 究 科	修士入学定員の増(62名増)	新規
プロジェクト分		
国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実		
理 学 研 究 科	超分子におけるストレスと共生(5-5)	
グローバルコラボレーションセンター	国際協力・共生社会のための実践的教育改革事業 グローバルコラボレーションセンター (9-4)	(増額要求)
サイバーメディアセンター	大学教育のグローバル化に対応したFD支援事業(4-2)	
基 礎 工 学 研 究 科	量子機能融合による未来型材料創出事業 スピントロニクス、オプトロニクス、モレクトロニクス、クオントロニクスの融合による未来型機能材料創出事業-(5-2)	
産 業 科 学 研 究 所	先端テクノサイエンス融合領域研究者育成のためのニューマスター構想・附属研究所を拠点とする研究密着型教育改革-(6-1)	新規
社 会 経 済 研 究 所	国際比較行動経済学研究プロジェクト(6-1)	新規
高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実		
薬 学 研 究 科	高度専門薬学教育システムの確立(5-5)	
臨床医工学融合研究教育センター	臨床医工学・情報科学融合領域の人材育成教育プログラムの開発(5-5)	
医 学 系 研 究 科	「子どものこころの発達研究センター」による教育研究事業(6-5)	
コミュニケーションデザイン・センター	コミュニケーションデザイン教育事業の推進-コミュニケーションデザイン・センター-(11-6)	
21世紀徳徳堂・コミュニケーションデザイン・センター(広報・社会学連携事務室)	社会連携活動を通じたインターンシップの推進(2-2)	
世 界 言 語 研 究 セ ン タ ー	社会人を対象とした学士レベルの外国語教育プログラムの提供(3-2)	
ナノサイエンスデザイン教育研究センター	ナノサイエンス総合デザイン力育成事業の推進-多重ネットワーク型産学・国際連携人材育成-(4-2)	
学 際 融 合 教 育 研 究 セ ン タ ー	学際融合教育事業の推進-学際融合教育研究センターの構築-(5-2)	
医 学 部 附 属 病 院	医療安全能力向上のための効果的教育・トレーニングプログラムの開発-医療安全学の構築と人材育成-(5-2)	
法 学 研 究 科	総合的知的財産教育事業の推進-知財センター(IPrism)の設置(6-1)	新規
情 報 科 学 研 究 科	社会基盤ソフトウェア研究教育プログラムの開発(6-1)	新規
薬 学 研 究 科	先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンス教育プログラムの共同開発(6-1)	新規
幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実		
サイバーメディアセンター	高度外国語教育全国配信システムの構築(5-4)	
大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実		
世 界 言 語 研 究 セ ン タ ー	民族紛争の背景に関する地政学的研究-中央アジア アフリカ パレスチナ 旧ユーゴの言語・文化の研究-(5-4)	
科学教育機器リノベーションセンター	革新的研究教育基盤機器開発整備事業(5-3)	
産 業 科 学 研 究 所	附属研究所間アライアンスによるナノ・マイクロを繋ぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト(6-1)	新規
超 高 圧 電 子 顕 微 鏡 セ ン タ ー	超高压電子顕微鏡連携ステーション(第 期)(6-1)	新規
極 限 量 子 科 学 研 究 セ ン タ ー	極限場の新量子科学創成事業-金属水素そして夢の室温超伝導-(5-1)	新規
接 合 科 学 研 究 所	特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究(6-1)	新規
蛋 白 質 研 究 所	生命分子素子から生命システムの全体像を解明かす多次元国際研究(6-1)	新規
医学系研究科(保健学専攻) 社会経済研究所、薬学研究科、人間科学研究科、歯学研究科	高齢双生児レジストリーを基盤とした総合的研究の推進 ~心豊かで健やかな超長寿社会を目指して~(5-1)	新規
臨床医工学融合研究教育センター	医・工・情報連携による未来型ハイブリッド機器創出事業-医工情報統合拠点センター形成による医工情報学際領域研究推進-(5-1)	新規
核 物 理 研 究 セ ン タ ー	サブアミック科学研究推進事業(4-1)	新規
レーザーエネルギー学研究センター	レーザー相対論核科学の開拓(6-1)	新規
理 学 研 究 科	新分析技術を基盤とする生体分子社会学の創設(5-1)	新規
工 学 研 究 科	ハードプロセスに基づくソフトマテリアルシステム創製事業-アミックテクノロジーの新展開-(6-1)	新規
産学連携機能の充実		
金 融 ・ 保 険 教 育 研 究 セ ン タ ー	新領域分野「金融・保険科学」に関する文理融合型教育プログラムの開発-金融・保険教育研究センター教育事業-(5-5)	
地域貢献機能の充実		
な し		

## 役員室だより

区 分	事 項 名	備 考
全国共同利用・共同実施分		
産 業 科 学 研 究 所	物質・デバイス領域共同研究拠点(ネットワーク型)(6-1)	新規
社 会 経 済 研 究 所	行動経済学研究拠点(6-1)	新規
微 生 物 病 研 究 所	微生物病共同研究拠点(6-1)	新規
接 合 科 学 研 究 所	接合科学共同利用・共同研究拠点(6-1)	新規
蛋 白 質 研 究 所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点(6-1)	新規
核 物 理 研 究 セ ン タ ー	サブアミツク科学研究拠点(6-1)	新規
レ ー ザ ー エ ネ ル ギ ー 学 研 究 セ ン タ ー	レーザーエネルギー学先端研究拠点(6-1)	新規
基盤的設備等整備		
レ ー ザ ー エ ネ ル ギ ー 学 研 究 セ ン タ ー	レーザー駆動高強度テラヘルツ波分析装置	
レ ー ザ ー エ ネ ル ギ ー 学 研 究 セ ン タ ー	大型ガラスレーザー激 光 号装置	
微 生 物 病 研 究 所	ゲノム自動解析装置	
産 業 科 学 研 究 所	超精密微細高精度ナノ加工機	
蛋 白 質 研 究 所	無染色細胞・組織三次元イメージング装置	
蛋 白 質 研 究 所	蛋白質溶液構造解析用高分解能核磁気共鳴装置	
蛋 白 質 研 究 所	高精度X線結晶解析システム	
接 合 科 学 研 究 所	自動X線マイクロアナライザシステム	
接 合 科 学 研 究 所	三次元内部欠陥計測システム	
医 学 部 附 属 病 院	電動リモートコントロールベッド	

### 【病院特別医療機械設備(長期借入金対象)】

医 学 部 附 属 病 院	集中治療支援システム	
医 学 部 附 属 病 院	眼科手術支援システム	

### 【施設整備費】

人材養成機能を重視した基盤的施設の整備		
学 生 部	(豊中)学生交流棟整備等事業(PFI事業:13-6)	PFI事業(13-6)
工 学 研 究 科	(吹田1)研究棟改修(工学部)整備等事業(PFI事業:13-5)	PFI事業(13-5)
国 際 部	(吹田2)Cホール南館	
人 間 科 学 研 究 科	(吹田)人間科学部本館改修	
外 国 語 学 部	(箕面)研究講義棟A棟改修(期)	
理 学 研 究 科	(理)研究棟改修(E棟)	
歯 学 研 究 科	(歯)歯学部本館改修	
工 学 研 究 科	(工)研究棟改修(E3,A1)	
工 学 研 究 科	(工)M1改修	
工 学 研 究 科	(工)G4改修	
総 合 学 術 博 物 館	(豊中)総合学術博物館	
大 学 教 育 実 践 セ ン タ ー	(豊中)I号館改修	
総 合 計 画 室	(豊中)基幹・環境整備	2回線受電
総 合 計 画 室	(吹田)基幹・環境整備	屋外ガス、屋外給水管、市水供給設備(受水槽)他・特高変電所増設
総 合 計 画 室	(箕面)基幹・環境整備(道路等)	
総 合 計 画 室	(箕面)基幹・環境整備(揚水設備等改修)	受水槽高架水槽の改修、ポンプ設備揚水管の改修、空調設備の改修(A棟・管理棟・図書館)
教 育 ・ 情 報 室	(豊中)福利センター改修	
卓越した研究拠点の整備		
薬 学 部 ・ 医 学 部 保 健 学 科	(薬・保健)ヘルスクエア・サイエンス棟	
情 報 科 学 研 究 科	(吹田2)情報系総合研究棟	
微 生 物 病 研 究 所	(微研)本館改修(2-2)	
微 生 物 病 研 究 所	(微研)南館改修	
生 物 工 学 国 際 交 流 セ ン タ ー	(吹田)生物系総合研究棟(生物学)	
サイバーメディアセンター	(吹田)サイバーメディアセンター(ITコア)改修	
総 合 計 画 室	(豊中)文理融合型総合研究棟・科学教育機器リノベーションセンター	
先端医療に対応した大学附属病院の整備		
医 学 部 附 属 病 院	(医病)基幹・環境整備(5-3)	・熱源設備改修(5-3) ・空調設備改修(5-3) ・搬送設備改修(5-3) ・防災設備改修(2-1) ・外壁改修(4-3)

## 平成21年度「共同利用・共同研究拠点」の認定

個々の大学の枠を越えて、大型の研究設備や大量の資料・データ等を全国の研究者が共同で利用したり、共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステムは、従来、国立大学の附置研究所や大学共同利用機関等を中心に推進されてきましたが、我が国全体の学術研究の更なる発展のために、国公立大学を通じて研究者が共同で研究を行う体制を整備することが重

要であることから、平成20年7月、新たに文部科学大臣による「共同利用・共同研究拠点」の認定制度が創設されました。

平成21年度は、全国の国私立大学から106件の申請があり、73件が認定されました。本学では、下記の8件が認定されました。

研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	研究分野
接合科学研究所	接合科学共同利用・共同研究拠点	材料加工・処理
蛋白質研究所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点	生物分子科学
微生物病研究所	微生物病共同研究拠点	感染症学・生体応答医学
社会経済研究所	行動経済学研究拠点	行動経済学
核物理研究センター	サブアトム科学研究拠点	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
レーザーエネルギー学研究センター	レーザーエネルギー学先端研究拠点	プラズマ科学

### 【ネットワーク型】

研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	研究分野
産業科学研究所 外4大学の施設	物質・デバイス領域共同研究拠点	物質・デバイス科学
サイバーメディアセンター 外7大学の施設	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点	計算科学、計算機科学

## 各室の検討状況

### 総合計画室

#### 第二期中期目標・中期計画の策定

平成22年度から始まる6年間の第二期中期目標・中期計画については、6月の役員会の承認を得て、文部科学省へ素案として提出しました。

なお、今後、提出した素案について、国立大学法人評価委員会で審議が行われ、来年3月に本学の中期目標・中期計画として確定する予定です。

また、この素案に基づく、部局の中期計画・平成22年度計画等の作成を9月末までで各部局にお願いしており、その説明会を、7月30日(木)コンベンションセンターにおいて、各部局の計画担当教員、評価担当教員及び事務担当者を対象に実施いたしました。



(説明会風景)

## 大阪大学文書館（仮称）の設置構想

大阪大学の歴史に関する資料を収集、整理、保存及び公開するために設置を予定している大阪大学文書館（仮称）の設置構想（案）を取りまとめました。第二期中期目標期間中の設置を目指しており、今後、組織や設置場所などについて、より具体の検討を進めていきます。

## 教育研究環境の改善と施設整備

### 融合型生命科学研究棟

融合型生命科学研究棟新営工事が完了しました。外観については、吹田西キャンパス群との調和と威圧感の低減を図りながら、シンボリックな建物としました。研究施設については、建物の高層化と明快な平面・断面ゾーニング計画により、研究室の狭隘解消を実現するとともに、専門的な実験に対応できる設備を施しました。また開放的なアメニティ空間や多様な情報交流の場を確保しました。外構については、隣接する建物を視野に入れ整備を行い、既存建物と一体的な屋外交流空間を構成しました。



南東面



屋外交流空間

構造：鉄骨造  
規模：地上10階  
延べ面積：9,258m<sup>2</sup>  
着工年月：平成19年12月  
完成年月：平成21年6月

## 省エネルギー活動の推進

省エネルギーの一層の推進を図るため、施設マネジメント委員会においては、各部局の電力使用量の把握・分析を行うとともに、使用者の省エネルギー意識の向上を図るためポスターを作製、配布して省エネ意識の啓発に努めています。また、毎年6月に省エネ推進会議を開催しています。各部局においては自主的な省エネ推進組織の設置、省エネ計画の策定など組織的な省エネ活動を展開しています。

6月23日に吹田・箕面地区および豊中地区で開催された省エネ推進会議は今年で4回目を迎えました。各部局の省エネルギー担当者に出席いただき、各部局における省エネ取り組み状況について報告、今後の省エネ活動推進のための情報交換を行いました。これまでは部局の努力も含め無駄の排除を行ってききましたが、研究教育の発展に伴いエネルギー使用量は増加する傾向となっており、これからは無駄の排除は引き続き推進しながら、「省エネ機器への転換」を視野に入れた具体的な方策を考える時期に来ているとの説明を行いました。

Step1

省エネ意識向上  
(無駄の排除)

- ・省エネ推進組織整備 (全部局に省エネ組織)
- ・省エネ推進会議 (H18年度から毎年実施)
- ・省エネポスターの掲示、省エネステッカーの貼付
- ・省エネパトロールの実施 (第3者による省エネチェック)
- ・クールビズ、ウォームビズの実施
- ・使用していない部屋及び昼休み等休憩時間の消灯
- ・未使用の部屋の空調機運転停止
- ・温度管理の徹底 (冷房時28℃、暖房時20℃)
- ・冷暖房期間中、ドア・窓の開け放し防止を徹底
- ・ブラインドの有効活用
- ・空調機フィルターの定期清掃
- ・PC等の省電力設定
- ・帰宅時のPC、プリンタ、コピー機等の電源OFF

これまでの取組

省エネポスター



H21年度省エネ推進会議

H21.6.23開催



吹田・箕面地区



豊中地区

Step2

機器・設備の  
効率向上

Step2-1

負荷の軽減

- ・外気冷房 (夏季の早朝、夜間及び中間期) 網戸の設置※
- ・窓ガラスに熱反射フィルム、コーティング剤塗布等※
- ・夏季・冬季の残業時間短縮、一斉休業等

Step2-2

運用の改善

- ・全熱交換器 (ロスナイ) の有効活用
- ・冷暖房開始時の外気取り入れ中止
- ・外気冷房の有効な期間は全熱交換器のバイパス運転を行う
- ・空調の温度設定を見直し、冷却負荷を軽減

Step2-3

省エネ設備導入  
(小規模)

- ・省エネ型 (Hf型) 蛍光灯への更新※
- ・人感センサー式通路、階段灯の設置※
- ・照明回路の細分化
- ・高効率型空調機 (ルームエアコン等) への更新※
- ・節水コマ、節水器具の導入

Step2-4

省エネ設備導入  
(大規模)

- ・高効率型空調機 (パッケージエアコン等) への更新
- ・大型熱源機器 (冷水機、冷凍機等) の更新
- ・照明、空調集中制御システムの導入※

※印・・・設備投資が必要な項目

これからの取組

# 教育・情報室

## 全学FD研修の実施

大学設置基準と大学院設置基準には、授業の内容及び方法の改善を図るため、組織的な研修及び研究を実施することが義務付けられています。

これに基づく平成21年度ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修を、別表のとおり実施します。9月9日(水)には豊中キャンパスに、教育学・教育社会学の第一人者である東京大学名誉教授の天野郁夫先生をお招きします。9月17日(木)には吹田キャンパスに、『落下傘学長奮闘記』で知られる岐阜大学前学長の黒木登志夫先生をお招きします。講演の後は両日とも、(研修A)優れた授業を行ったこ

とで表彰された教員による教育上の工夫についての報告、(研修B)学生のキャンパスライフにおける問題やWeb-CTの利用法など教育における実務についての講演、(研修C)教育について討論するための参加型ワークショップ、という三つの選択肢の中から選んでいただき、分科会に分かれて研修を行います。

大学の最大の役割は、優れた教育によって優れた人材を育成することです。教育能力の向上のため、部局長や教授をはじめ若手教員や特任教員まで、可能な限り多くの教員の方に本研修にご参加いただくようお願いします。

### 平成21年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修日程表(案)

豊中地区 平成21年9月9日(水)文系総合研究棟

13:00~13:30 (30)	13:30~13:45 (15)	13:45~15:15 (90)	15:15~15:30 (15)	15:30~17:00 (90)
受付・資料配付	開会式 挨拶	「学外講師による講演」	休憩・移動	研修A
	驚田総長 小泉理事			「共通教育賞受賞者の授業での取組事例」 言語文化研究科 准教授 井元秀剛氏
		研修B		
		「授業支援システム(WebCT)について」 サイバーメディアセンター長 竹村治雄氏		「キャンパスライフにおける諸問題について」 学生生活委員会委員長 大垣一成氏
講師	研修C			
		東京大学名誉教授 天野郁夫氏		「参加型授業を企画する際の留意点」 :ワークショップ体験を通じて」 GSCD特任講師 八本絵香氏
司会進行: 研修A 工藤室員 研修B 小林室員 研修C 藤田室員				研修A~Cの内1つを選択

吹田地区 平成21年9月17日(木)コンベンションセンター

13:00~13:30 (30)	13:30~13:45 (15)	13:45~15:15 (90)	15:15~15:30 (15)	15:30~17:00 (90)
受付・資料配付	開会式 挨拶	「学外講師による講演」	休憩・移動	研修A
	驚田総長 小泉理事			「共通教育賞受賞者の授業での取組事例」 産業科学研究所 教授 朝日 一氏
		研修B		
		「授業支援システム(WebCT)について」 大学教育実践センター 教授 岩居弘樹氏		「キャンパスライフにおける諸問題について」 教育・情報室 准教授 太刀掛俊之氏
講師	研修C			
		前岐阜大学学長 黒木登志夫氏		「試行しつつ学び、考える「大学における参加型授業」 ワークショップ」 GLOCOL特任助教 和泉 百恵氏
司会進行: 研修B 宮崎室員 研修C 平沢室員				研修A~Cの内1つを選択

※スケジュールは、都合により変更する場合があります。

## 高度教養教育推進ワーキング報告書

本学は教育理念として「教養」を掲げています。第二期中期計画に向けて、教養教育はますますその重要性を増していくと思われまます。

特に本学では、大学院や学部高学年向けの「高度教養教育」を重視しています。そこで教育・情報室では、平成19年11月にコミュニケーションデザイン・センターの小林傳司教授を座長とするワーキングを設置し、「高度教養教育として何を考えるか」、「大阪大学の現状の把握」、及び「高度教養教育の充実のための方策の提案（カリキュラム及び組織）」について検討を進めてきました。この度その報告書を刊行し、各部署にも配付しました。次期中期計画に則した高度教養教育の推進のため、本報告書が活用されることを希望します。



## 大阪大学特別講義

大阪大学の全学部・全研究科の学生を対象に、学生の専門にかかわらず是非考えるべき問題について講義していただくという新しい試みとして、「大阪大学特別講義」を実施しました。第一回は6月15日に、劇作家・評論家・中央教育審議会前会長・大阪大学名誉教授の山崎正和先生をお招きして、「文明史観から見たこれからの世界」についてご講演いただきました。第二回は6月26日に、建築家・東京大学特別栄誉教授の安藤忠雄先生をお招きし、「夢をかけて走る」と題してお話しいただきました。900人にのぼる学生が会場に溢れた日もあり、講演終了後もきわめて活発で有意義な議論が行われました。

## スチューデント・commonsの設置工事を開始

前号でお知らせしたように、豊中キャンパスの大学教育実践センター自然科学棟に「スチューデント・commons」が開設されます。この度工事が始まり、10月末に完成する予定です。11月9日(月)にはオープニングのセレモニーが行われ、その後さまざまなイベントが計画されています。

1階部分は、カフェゾーン「カルチエ」のほか、図のように情報ゾーンと自習ゾーンから構成されます。同じく1階の「開放型セミナー室」では、映像によ

る教育活動等が可能となり、室内部分とテラス部分とを一体化して利用することができます。2階にも新型セミナーや新しい教育活動を展開するためのセミナー室が整備されます。

スチューデント・commonsは授業のほか、学習成果発表、課外活動、学生同士の談話、教員と学生の対話、留学生と日本人学生の交流、またさまざまなイベントなどに利用することができます。



スチューデント・commons 1階部分



開放型セミナー室

### 次期学務情報システム導入プロジェクト

学務情報システム（KOAN）のリース期間終了が近づいており、より優れたシステムを導入するための「次期学務情報システム導入プロジェクト」が発足しました。理事・副学長（教育・情報室長、情報基盤推進本部長）をプロジェクト・リーダーとし、教育・情報室員のほか、学務側からは教育課程委員会委員や学生部職員など、情報側からは情報基盤推進本部長や情報推進部職員など、また事務改革策定ワーキングのメンバーが加わっています。

全学の教員・職員・学生から現在のKOANについての意見を集め、システムを改善するための「KOAN評価アンケート」をKOAN上で実施しています。9月末日が回答期限ですが、システム改善のためのご意見をいただく唯一の機会ですので、可能な限り多くの方々のご協力をお願いします。なお、次期学務情報システムは、平成23年9月に本稼動する予定です。

### ソフトウェアの包括契約

昨年から検討を続けてきたソフトウェアの包括契約を、平成22年1月1日に導入することが決まりました。この契約により、大阪大学がキャンパスに設置し使用するすべてのPCに、ワード、エクセル、パワーポイントなどのMS-Office（Office for Macを含む）の最新バージョンをインストールできるようになります。また、既存のOSを、Windows 7などの最新バージョンにアップグレードすることができます。自宅使用权（Work At Homeもしくは自宅使用プログラム）が含まれますので、大阪大学の教職員と全学生（正規生）は、一人あたり一台のPCに上記ソフトウェアをインストールして自宅での利用や学習に使用することができます。

この包括契約により、大阪大学における情報環境の向上と標準化、教育環境の充実、e-Learningなど修学環境の整備、学生サービスの向上、経費節減、業務の簡素化、不正ソフト使用の防止と組織的コンプライアンスの確立、36言語に対応するソフトウェアによる国際化など、大きな効果が期待されます。

この件に関して詳しくは、情報推進部情報基盤課へお問い合わせください。

## 研究・産学連携室

### 平成21年度科学研究費補助金の採択状況（速報値）

本年度における科学研究費補助金の採択件数・配分額は、全国3位となっています。なお、上位7大学については以下のとおりです。

（金額単位：千円）

機関名	採択件数	配分額	間接経費	合計
東京大学	2,894	16,377,631	3,591,969	19,969,600
京都大学	2,305	10,477,749	2,385,735	12,863,484
大阪大学	1,908	7,871,619	1,836,906	9,708,525
東北大学	1,878	7,437,550	1,838,445	9,275,995
九州大学	1,417	4,397,537	1,026,491	5,424,028
北海道大学	1,326	4,490,850	1,104,075	5,594,925
名古屋大学	1,270	4,669,676	1,011,173	5,680,849

平成21年度（新規採択＋継続分）における採択件数・配分額



## 文部科学省「教育研究高度化のための支援体制整備事業」に選定

本事業は、大学において教育研究を高度化し世界の有力大学と伍するための国際競争力を高めていくためには、大学内において、教育研究プロジェクトの質を向上させ、当該学問分野における発展を目指す必要があり当該プロジェクトに関わる大学教員・研究者・博士課程学生等が安心して教育研究に専念できるよう教育研究業務やプロジェクトマネジメント等を支援する体制を整備することが重要であることから博士課程を設置する大学について、特に教育研究支援等の体制整備を図るプロジェクトを先導的な事業として位置付けられるものとして支援されるものです。

全国の国公私立大学から 89 件の申請があり 62 件が選定され、本学からは、「世界的拠点構築のための高度人材育成支援事業」が選定されました。

## 文部科学省の新規事業 「バイオベンチャー創出環境の整備」 実施機関に採択

産学連携推進本部は、昨年度から文部科学省の産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）の「国際的な産学官連携の推進」実施機関として活動していますが、この度、今年度新たに公募のあった「バイオベンチャー創出環境の整備」実施機関としても採択されました。この事業では、「多彩で強固な支援ネットワークと、継続的に有望なシーズを創出できるインフラを有するバイオベンチャー創出拠点」を目指し、拠点化・ネットワーク化の促進、知的財産創出・活用機能の強化、人材の確保・育成基盤の強化、を実施し、具体的な有望シーズ創出および事業化プロジェクトを推進して参ります。

また、前号でお知らせした「産学官連携拠点」に採択された結果、「地域中核産学官連携拠点の形成支援」及び「グローバル産学官連携拠点の形成支援」の実施機関としても活動することになりました。

今後は、これら 4 つの活動及び従来機能の有機的連携を図りつつ、大学に産業創出拠点を導く「Industry on Campus」構想の実現に一層邁進して参ります。

## 知的財産・産学官連携に関するセミナー、イベント等を開催

産学連携推進本部では、発明等の創出・管理・活用のほか、学生や学内外を対象としたセミナー、イベント等を開催しています。

まず、「知的財産セミナー」を、特許庁、近畿経済産業局との共催により、11月に吹田・豊中両キャンパスで開催します。このセミナーは学生向けですが、教職員や一般の方の参加も可能です。また、世界に通用する質の高い特許権の創出等を目的として、企業と大学とが本音で交流する場である「知財サロン」の開催も予定しています。詳細は、決定次第、同本部ホームページ（<http://www.uic.osaka-u.ac.jp/>）に掲載いたします。

一方、学内向けには、「産学官連携・知的財産担当者等基礎研修」を 6～7月にかけて開催しました。この研修は、学内の産学官連携・知的財産関連業務に従事する教職員を対象に、業務に必要な知識の修得、実務能力の向上を目的として開催しています。今年度は 10 名が受講し、うち 9 名が修了試験として知的財産管理技能検定 3 級を団体受検しました。



産学官連携・知的財産担当者等基礎研修集合写真

## 評価室

### 20年度業務実績報告書の公表

6月末に、上記業務実績報告書を文部科学省国立大学法人評価委員会に提出し、8月19日には同委員会評価チームによるヒアリングが実施されました。

同報告書については、ホームページで公表しています。

[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/files\\_hyouka/gyoumu-jisseki-h20.pdf](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/files_hyouka/gyoumu-jisseki-h20.pdf)

なお、同報告書における業務運営等に関する自己評価は、次のとおりです。

項目	年度 計画数	20年度 進捗状況(自己評価)			
		達成	未達成	未実施	未評価
<b>(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標</b>	48	1	47	0	0
1 運営体制の改善に関する目標 (No.164)~(178)	15	0	15	0	0
2 教育研究組織の見直しに関する目標 (No.179)~(184)	6	0	6	0	0
3 人事の適正化に関する目標 (No.185)~(204)	21	1	20	0	0
4 事務等の効率化・合理化に関する目標 (No.205)~(210)	6	0	6	0	0
<b>(2) 財務内容の改善</b>	16	0	16	0	0
1 外部資金その他の自己収入の増加に関する目標 (No.211)~(219)	9	0	9	0	0
2 経費の抑制に関する目標 (No.220)~(223)	4	0	4	0	0
3 資金の運用管理の改善に関する目標 (No.224)~(226)	3	0	3	0	0
<b>(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供</b>	12	0	12	0	0
1 評価の充実に関する目標 (No.227)~(234)	8	0	8	0	0
2 情報公開等の推進に関する目標 (No.235)~(238)	4	0	4	0	0
<b>(4) その他業務運営に関する重要目標</b>	31	0	31	0	0
1 施設設備の整備等に関する目標 (No.239)~(258)	19	0	19	0	0
2 安全・衛生管理に関する目標 (No.259)~(270)	12	0	12	0	0
合計	107	1	106	0	0
【年度】					
年度計画を上回って実施している					
年度計画を順調に実施している					
年度計画を十分に実施できていない					
年度計画を実施していない					
(注) 計画248)と249)は一本化して評価している。					

### 大学機関別認証評価 訪問調査日程決定

(独)大学評価・学位授与機構による訪問調査日程が次のとおり決定しました。実施内容の詳細は、改めてお知らせします。

11月18日(水)午後 豊中地区視察  
11月19日(木)~20日(金) 訪問調査 実施

### 第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価【確定評価】

本年度は、第1期中期目標期間(平成16~21年度)の最終年度です。このため、来年6月末日に提出する業務実績報告書等は、第1期中期目標期間評価【確定評価】として位置づけられています。

業務実績報告書のうち、業務運営及び附属病院については、平成20年度実施概要、平成21年度計画に対する実施状況と年度自己評価、中期目標期間の自己評価等の作成が必要になります。

一方、(独)大学評価・学位授与機構が行う『教育研究評価』については、大学が作成する「中期目

標の達成状況報告書」(平成20~21年度の取組を記載)と暫定評価以降に発足した研究科である連合小児発達学研究科に係る「現況調査表」を提出することになります。

作成要領等は、現在、同機構で検討中ではありますが、提出期限までの期間が短いことを踏まえて、平成20年度に行われた暫定評価を基に、今夏以降、各室等及び関係各局には、随時、作成依頼を行いますので、ご理解・ご協力をお願いします。

## 財務室

### 平成20年度決算について

平成20年度の決算を行い、文部科学省へ財務諸表を提出しました。提出した財務諸表は、国立大学法人評価委員会の意見を聴いたうえで、文部科学大臣が承認を行うこととされており、その承認を受けた後、公表する予定です。

### 資金運用について

平成20年度に引き続き、資金需要を考慮した適切な運用金額、運用期間及び運用形態を検討し、長期・短期の資金運用の組み合わせによる効率的な資金の運用を行なうこととしており、今年度においても、まず、短期資金運用計画を策定し、運用を始めました。

## 人事労務室

### 大阪大学の開講する授業科目の受講による職員研修実施状況について

本学では、鷲田総長の発案により、常勤職員が大阪大学の開講する授業科目の受講を可能とする研修制度を設けております。(詳細は、2009.2月号参照)

7月1日現在、合計5名の職員が文学部、法学研究科及び経済学部の各授業科目を受講しています。

同制度は、総合大学ならではのものであり、レベルの高い様々な授業科目を受講することによる資質・能力の向上は勿論のこと、違った視点から大学を知ることにもつながり、受講者自身の今後のキャリアアップにきつとつながるものと考えています。

興味をお持ちの皆さんは、ぜひチャレンジしてください!

こんにちは。法学研究科・高等司法研究科事務部の丸山です。

4月から7月まで週1回、経済学部の「組織論」を受講しました。

採用されて10年余りですが、大教室の中でたくさんの学部学生に混じって講義を受けるのはとても新鮮でした。

予習・復習は大変ですが、受講して新たに考えさせられることや、これまでの認識を改める必要があることなどに気付かされました。

皆さんも興味がある科目があれば、ぜひ受講研修をお奨めします。



### 障害者雇用率について

「障害者の雇用の促進等に関する法律」では、社会連帯の理念に基づき、積極的に身体障害者又は知的障害者の雇用を行い、その雇用の安定を図ることが事業主の責務とされており、本学にも一定の障害者雇用率(2.1%)達成の義務が課せられております。

本学は過去に、障害者雇用が進んでいない国立大学法人として報道されたこともありました。その後の各部局等のご尽力やキャンパス清掃チーム「エコ・レンジャー」制度の導入(詳細は、2008.8月号参照)

などの取り組みが徐々に実りはじめ、本年6月1日現在の雇用率は1.94%と、前年度同時期の数値(1.43%)から大幅に上昇しました。

大学としては、社会的責任をなお一層果たしていくため、今後とも新たな職域の開発など、雇用の場の創出に向けて引き続き努力を続ける所存でございますが、各部局等におかれましても、雇用の拡大に積極的に取り組んでいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 特任研究員（常勤）制度の現状について

本年4月から導入しました、特任研究員（常勤）制度に関しましては、種々ご協力いただき、誠にありがとうございます。

お陰をもちまして、7月1日現在で18部局、111名の者を特任研究員（常勤）として雇用しています（この他、非常勤の特任研究員は624名であり、合計735名）。特任研究員には、従来、常勤の職がありませんでしたので、これまでより良好な環境の下で研究活動に専念する状況を設定することにより、制度創設の趣旨である

・常勤ポストでの雇用による、より優秀な人材の確

保及び育成

- ・大学の教育研究活動の発展及び個々の研究者の研究活動の向上
- ・裁量労働制の適用による、個々の研究業務に即した柔軟な研究活動遂行の促進

を達成していただいているものと思料しております。

各部局等におかれましては、この制度の趣旨をご理解いただき、引き続き特任研究員（常勤）の雇用についてご配慮くださいますよう、よろしく申し上げます。

## 広報・社会学連携室

### 中之島講座（21世紀懐徳堂）

中之島講座は、大阪大学の中でも今年で41回目を迎える公開講座であり、テーマ毎に多様なニーズに応えるべく多彩な講師陣を揃え、毎年中之島講座運営委員会において、その年の開催に向け企画立案にあたっています。

しかしながら、受講者の高齢化、固定化等経年による様々な運営上の問題も浮上してきており、委員会においても議論し、本年は、多くの市民の方々に目を向けていただくために例年の秋季講座に加え、夏季講座スペシャルとして、大阪の歴史をわかりやすく説明し、親しみやすい内容の講座を開講しました。

今年の夏季講座スペシャルの様子については、36ページをご覧ください。



### CSRに関する研究会を開催

大阪大学が、大阪の学芸と市民文化の再興のために、近隣社会の様々なセクターと手を携えて多様な文化事業を推進してゆく、その取り組みを社会学連携と呼んでおり、これには在阪企業などのCSR（企業の社会的責任）事業とパートナーシップを組むということも有効な手立てになると考えられます。（阪大NOW2008年1月号において鷲田総長が社会学連携活動に関して述べられています）

本学が様々な視点から、大阪のために何が貢献できるか、市民と手を携えてどのような社会貢献活動を推進してゆけるのか等を先進的に取り組んでいる各企業のCSR担当の方々に直接お話を伺い、意見交換をし、本学の社会学連携活動の発展に役立てていこうと研究会を開催しました。

第1回目は8月3日(月)に、住友化学株式会社代表取締役専務執行役員の高尾剛正氏を講師に迎え、社内の体制も含め、同社のCSR活動の具体的な取り組み事例等の説明があり、大学からは、本室員の他、21世紀懐徳堂の職員や部局の教員にも参加を呼びかけ、意見交換を行い、非常に有意義な研究会となりました。

今後も、本学の社会学連携活動の発展に向け、様々なセクターとの接点を探りつつ、社会貢献活動を推進していきたいと考えています。



## 国際交流室

### 「平成21年度国際化拠点整備事業（グローバル30）」に採択

皆様、既にご承知の通り、標記事業（以下ではG30と略記）への本学からの申請が採択となりました。G30は、我が国の高等教育の国際競争力を強化し、留学生等に魅力的な水準の教育等を提供するとともに、留学生と日本人学生が共に学び、刺激し合う環境の中で国際的に活躍できる高度な人材養成を図ることを目的としています。また、各大学の特色に応じた質の高い教育と、海外の学生が日本に留学しやすい環境を提供する国際化拠点の形成に向けた取組を総合的に支援する事業です。

申請した22大学のうち、採択された大学は東北大学、東京大学、筑波大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、早稲田大学、慶應大学、上智大学、立命館大学、明治大学、同志社大学の13大学でした。申請の要件として、学部と大学院にそれぞれ最低1つの英語コース（英語だけで学位が取得出来るコース）を新設すること、教育関連活動を主とする海外拠点の運営実績があること、平成32年を目標年として、留学生の数についての目標値（全学生に占める割合が10%以上、かつ2,600名以上）を明示することなどが掲げられており、申請にはどの大学も苦労したようです。

本学の構想の概略は以下の通りです。まず、人間科学部が「人間科学コース（定員10）」を、理学部・工学部・基礎工学部の共同で「化学・生物ダブルメジャーコース（定員20）」を、理学研究科が「統合理学特別コース（定員10）」と「国際物理特別コース（定員10）」をそれぞれ新設することとしています。これらのコースは本学の教育プログラムの幅を一段と広げるものとして期待されます。

目標値については3,000名としました。留学生の

数は2009年5月現在で1,455名ですので、約2倍です。構想では、1年未満の短期留学生を多く勧誘し、現在約200名弱であるのを平成32年度におよそ1,000名規模にすることとしています。前号で紹介した各種の短期プログラムをはじめ、今後多様な短期プログラムの開発を全学挙げて推進し、多くの外国の学生に本学での教育・研究に触れる機会を作りたいと思っています。本部・部局の英文ホームページの充実化とともに、本学に興味を抱く学生諸氏への情報提供についても、海外への組織的なキャンペーンも含め、補助金を投入して格段の充実化を図る計画です。

そして、多くの外国人研究者・留学生を迎えるためには、快適に過ごせる環境が必要となります。留学生センターの拡充整備やサポートオフィスの充実化などによりサービスの向上を図ることを構想の中に盛り込んでいます。また、日本語に習熟していない外国人研究者・留学生にも特に支障のない環境づくりにも取り組みたいと考えています。KOANをはじめ様々な通知文書の英語化、英語を駆使できるスタッフの育成、宿舎斡旋システムの改良、研究者・留学生受け入れに伴う事務処理効率の抜本的向上にも注力する予定です。

学部の英語コース開設は初めての試みでもあり、英語での授業科目の提供など、全学的に多くの先生方のご支援・ご協力が欠かせません。また、部局の国際化の推進についても、ニーズ調査などを実施し、要望に基づいて補助金を有効に活用してゆきたいと考えています。G30の採択を契機に本学の国際化を一気に推進するため、皆様のご協力を心からお願いする次第です。

# リユース機器活用の勧め

科学教育機器リノベーションセンター

センター長 中嶋 英雄

副センター長 宮崎 文夫、石塚 守

## 既存の基盤機器のリユースを目指した全学的取り組み

国立大学法人等における学術研究設備予算は今から10年前と比べると数分の一以下に減少しています。大阪大学においても以前は何年かに一度は学科や専攻の共通性の高い機器が設置されたり、更新されたりして研究や教育に役立ってきていましたが、現在ではそのような要求を文部科学省にしてもほとんど認められなくなってきています。国の研究教育の基盤である設備投資が弱体化してきており、研究教育上大きな問題となってきております。確かに、以前と比べれば科学研究費をはじめとする競争的資金は増額の傾向が見られますが、それらは単発的なものであり、ある研究者に特化した機器の導入であり、大学全体の研究や教育の底上げ、レベルアップという点では不満足なものです。このような基盤機器の減少は長い目で見れば研究教育の弱体化につながると心配されます。

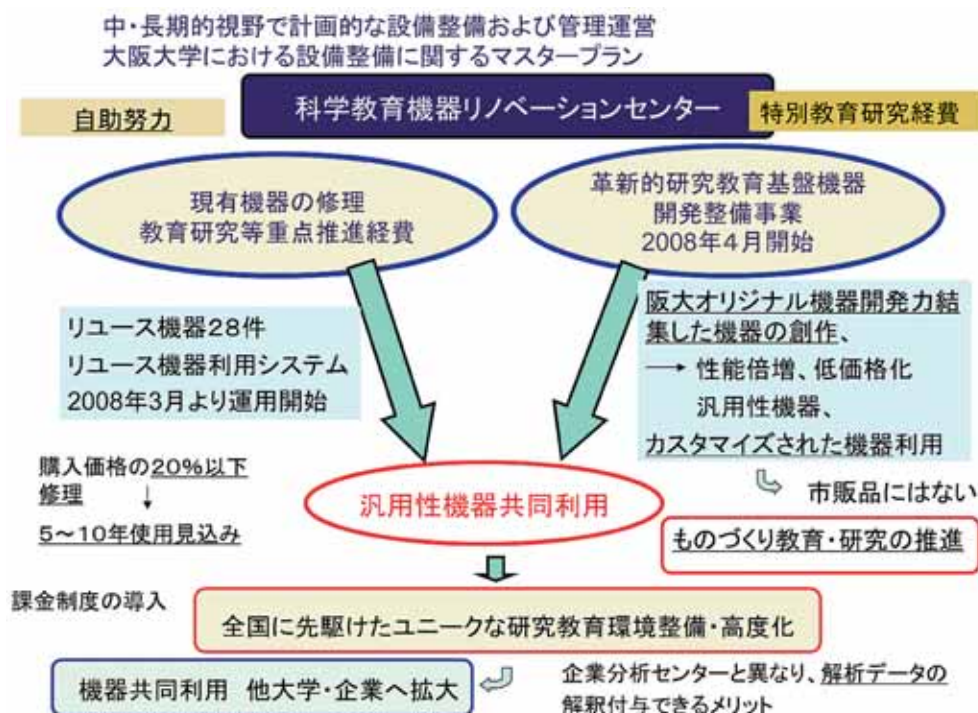
そこで、科学教育機器リノベーションセンターでは、「大阪大学における設備整備に関するマスタープラン」に基づ

き、学内にあるリユース（再生）可能な研究教育機器を修理・復活させ、それらを汎用性研究教育基盤機器として広く学内の教員や学生への共同利用に供することを目的に、学内経費である教育研究等重点推進経費の要求を行い、平成19年度よりリユース機器の整備を行ってきました。厳しい財政難の折に、少しでもこれまで蓄積されてきた、大阪大学の財産である研究教育機器を有効に活用しようとする試みです。

本稿では、科学教育機器リノベーションセンターの大きなミッションの一つであるリユース研究教育基盤機器の整備事業を学内の皆さんに広く紹介し、整備されつつあるリユース機器を積極的に利用・活用していただき、研究教育の発展向上に結び付けていただきたいという希望を述べさせていただきます。

## リユース機器に登録するには？

リノベーションセンターはリユース機器を保有しているわけではありません。リユース可能な設備・機器の全学的



な活用に関する調査を行い、以下のガイドラインに合う機器を選定します。

- ・1,000万円（一つの目安で、変わる場合もあります）以上の設備・機器で、購入価格の20%以下の修理費に収まるもの。
- ・購入価格と修理費について上の条件を満たした上で、コンピューターのハードウェア・ソフトウェアの更新によりリユース可能となるような機器・設備や定年あるいはプロジェクトの終了に伴って共同利用機器に供してよいと判断される機器・設備も対象とする。
- ・汎用性、有用性のある機種を対象とする。
- ・リユース後は共同利用に供する運転時間を確保していたく。
- ・設置場所の確保や管理についてはリユース希望研究室あるいは部局で行っていただく。

これらのガイドラインに沿った機器・設備を各部局から申請していただき修理後の汎用性・共通性を考慮して選定し、リノベーションセンターから教育研究等重点推進経費として本部に要求しリユース機器を完成させています。平成19年から2年半を経過しましたが、約30件の機種がリユース機器として稼働しています。

### リユース機器にはどのようなものがあるか？

現在までに登録されたリユース機器は、各部局に点在し、DNA解析装置、超遠心機、質量分析器、X線構造解析装置、NMR装置、表面界面分析装置、冷凍機システム、プラズマ装置などが利用できます。単位時間当たりの利用料金は皆さんが利用しやすいように500円から5,000円程度に抑えています。利用料金の納付は、現在は運営費交付金に限っていますが、本年度後半が遅くとも来年度以降からは科学研究費補助金や奨学寄付金なども使えるよう準備中です。

### リユース機器を使うには？

リノベーションセンターでは「リユース設備・機器利用のご案内」というパンフレットを準備しております。必要でしたら、センターのリユース促進室リユース担当 鷲尾（おしお）佐智子氏（Tel 内線8423 E-mail: oshios@star.jim.osaka-u.ac.jp）までご連絡ください。また、リノベーションセンターのホームページ（<http://www.reno.osaka-u.ac.jp>）を開いていただき、「利用申し込み」のボタンをクリックして申し込みをしていただくことができます。

### 投資効果は抜群！

例えば、ある部局では10年前に価格7,000万円で購入したX線マイクロアナライザーの老朽化が激しく利用者が減っていました。しかしながら700～800万円のリユース費の支援を行って分光結晶を新しくし、バージョンアップのコンピューターを取り替えただけで、購入時の性能を發揮することができ、それによって利用者が激増しました。わ

ずかの費用で購入時の性能をしかも、購入時よりも解析能力の優れた分析機器に生まれ変わりました。このように考えますと新品を購入したものと変わらない投資効果を生み出すことができます。最近は大規模機器にも維持費が伴わなくなり、「使い捨て」にならざるを得ないところをリユースすることによって再度、教員、学生の研究や教育に活用していただくことができます。今後は多数の皆さんに積極的にリユース機器を利用していただければ、利用料金が収益財源となり、リユースの細かなメンテナンスに関わる費用として捻出することも可能になります。

### リユース機器の今後？

大阪大学は単独の大学としては全国の大学に先駆けて「大学における設備整備に関するマスタープラン」に基づいたリユース汎用性研究教育基盤機器の整備を大阪大学の自助努力の基に本格的に行っています。

さらに、革新的研究教育基盤機器開発整備事業も推進しています。これは学内公募で厳選された7件の開発プロジェクトを文科省に概算要求を行い平成20年度から5年間の開発事業として認められ、市販品に比べて低コスト、高性能な阪大「オンリーワン」手作りの汎用性先端機器を開発しようとするものです。当センターの先端機器開発室が支援を行っています。1年後には「高性能小型マルチターン飛行時間型質量分析計」（リーダー・理学・野末泰夫教授）と「全固体真空紫外レーザーによる超微細加工装置」（リーダー・工学・森勇介教授）が完成し汎用性機器として皆さんにご利用いただけます。

来春には、産業科学研究所に建設中のナノテクノロジーインキュベーション棟の5階にリノベーションセンターの吹田分室がオープンしますので、各部局に点在しているリユース機器の一部と先端開発機器がそこに設置される予定です。研究教育機器が一箇所に設置されることによって利用者の使い勝手も格段に良くなるのではないかと期待しています。

科学教育機器リノベーションセンターは、大阪大学の教員、学生の皆さんの研究教育のレベルアップを効率的に推進するための縁の下での力持ちとして職員一同協力してやっていくつもりですが、また同時に各部局のリユース機器の管理や操作に従事している職員の方々の協力があってはじめて円滑に運営ができるものです。また、なんとと言っても教員や学生の皆さんが研究、教育のために気軽に積極的にそれらの機器を是非使っていただきたいと思います。利用実績が上がればリユース機種をさらに増加させることができ、延いては皆さんが定常的な着実な研究を遂行することができる体制を科学教育機器リノベーションセンターは目指しています。

## スチューデント・スタッフが活躍!

共通教育の履修制度は新入生にとってはわからないことだらけです。その結果、これまで4月の教務係の窓口は行列が出来るなど混雑を極めていました。

そこで、平成21年4月より、新入生に対して履修登録時のサポートなどを行うため、豊中地区の学部2年生以上または大学院生をスチューデント・スタッフとして採用することになりました。いわばスチューデント・スタッフは、共通教育の履修に関する相談を受けてくれる、先輩たちといえます。

3月30日(月)にはスチューデント・スタッフの講習兼説明会が行われ、スチューデント・スタッフになる学生はみ



な、センター長や教務係長からの心構えや注意事項に対し熱心に耳を傾けていました。

4月からの本格稼働では、相談窓口を共通教育棟の玄関など計3箇所に設けて随時対応できるようにローテーションを組み、教室設備点検、新入生の一斉履修登録の補助、共通教育の履修に関する相談対応、窓口や教室等への誘導・案内など、多岐にわたる活躍が見られました。活動期間中は、ワニのマーク(大学教育実践センターのロゴ)の入った青いスタッフジャンパーが目印となり、新入生が相談に訪れる姿が多く見受けられました。

(大学教育実践センター)

## 薬学部・薬学研究科 外国人留学生等歓迎パーティー

平成21年度薬学部・薬学研究科外国人留学生等歓迎パーティーが、5月12日(火)に薬学研究科2号館セミナー室において、約120名の参加を得て開催されました。

パーティーは小林資正薬学研究科長の開会挨拶、上島悦子教授の発声による乾杯で始められ、外国人留学生、外国人研究員に加えて、多くの教員、学生が加わり、留学生間の交歓に加え、留学生にとって日頃接する機会の少ない他分野の教員、学生と懇談する良い機会となりました。

外国人留学生・研究員の出身国は、中国、タイ、オーストラリア、ブルガリア、エジプト、ナイジェリアと様々でしたが、自己紹介の際には流暢な日本語で、学業・研究に対する抱負を語り、拍手喝采が送られました。終始、楽しい雰囲気の中で懇親を深め、好光健彦准教授による開会挨拶の後に名残を惜しみつつ散会となりました。

(薬学研究科・薬学部)





## 洪庵忌 - 適塾の夕べ -

適塾を開いた緒方洪庵の命日（6月10日）に、洪庵の遺業を偲ぶ催し「洪庵忌 - 適塾の夕べ -」が本年も6月8日(月)適塾1階客座敷において開催されました。

今回は、役員、各部局長を始め、緒方家から緒方惟之氏、適塾記念会役員など関係者約30名の出席があり、当時の塾生が学んだ時と同じような雰囲気の中、坂元一哉法学研究科教授が「オバマ政権と日米関係」、また、岡部 勝微生物病研究所教授が「クラゲの蛍光タンパク質（GFP）でいのちの仕組みを照らす」と題してそれぞれ講演を行いました。

（企画部広報・社会学連携事務局）



## 大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会

（トピックスの続き）

第2部では、司会に大阪外国語大学の卒業生でもある石野伸子産経新聞社編集委員を加え、「現代を生きる家族」と題して両氏による対談が行われました。対談では、家族について、松本氏は「閉塞感の漂うこの時代に、特に都会で若者は生きる上で孤独を感じており、抛りどころになる家族が必要である」と述べられ、山田氏は「今、若者の自殺者が増えていることの原因は、やはり家族というものに在り方も含め考えていかなければいけないことではないか」と話されました。

また、鷲田清一総長は、「大阪大学は学術だけでなく、大阪の様々な文化、芸術を守っていく責務を担っており、この講演会は、市民の人たちとともに培ってきた伝統あるものである」と挨拶されました。

（企画部広報・社会学連携事務局）



## 適塾特別展示 緒方惟準の生涯 - 没後100年記念展 -

平成21年度の適塾特別展示「緒方<sup>これよし</sup>惟準の生涯 - 没後100年記念展 -」が適塾記念会と共催で、6月2日(火)から14日(日)まで適塾において開催されました。

今回の特別展では、緒方洪庵の次男で、洪庵の死後、緒方家を継いだ惟準を取り上げました。惟準は、高名な父洪庵の陰に隠れて一般になじみが薄い存在ですが、医師の養成や軍医制度の確立、医学雑誌の創刊、民間における医療活動など、明治期日本の医学を語る上で欠かすことのできない人物です。今年、惟準没後100年を迎えるにあたり、洪庵の医戒を实践したその足跡をたどる数々の資料が展示されました。

12日間の期間中、多数の參觀者が訪れ、好評のうちに閉幕しました。  
（企画部広報・社会学連携事務局）



## 平成21年度 医学部御遺骨返還式

6月3日(水)医学部共通棟3階大会議室において、御遺骨返還式がしめやかに執り行われました。

この式典は、毎年行われているものであり、系統解剖のために篤志団体である大阪大学白菊会から献体をいただき、医学部学生が平成20年度中に解剖させていただいた方々の御遺骨を御遺族にお返しする行事で、今回で85回を迎えました。

当日は、曇り空の中、約80名の御遺族が出席され、医学部からは平野俊夫学部長はじめ、解剖学教室の関係教員、八幡親明白菊会会長等が出席されました。

式典は、まず献体者の方々の御霊に対して参列者全員が黙祷を捧げた後、平野学部長から献体者の尊い御意志と御



遺族の深い御理解に対して深く感謝を申し上げる旨の挨拶がありました。続いて、38名分の御遺骨が平野学部長から御遺族一人ひとりに返還され、併せて八幡白菊会会長から御供物が手渡されました。最後に、解剖学教室を代表して、神経細胞生物学講座の島田昌一教授からお礼の言葉が述べられ、滞りなく御遺骨返還式は終了しました。

なお、式典終了後、御遺族及び医学部関係教職員がそって吹田キャンパス内にある「大阪大学医学部・歯学部献体慰霊碑」に献花を行い、献体者の御冥福をお祈りして散会しました。

(医学系研究科・医学部)

## 国立大学法人八大学文学部長会議

第57回(平成21年度)国立大学法人八大学文学部長会議が去る6月4日(木)及び5日(金)に、大阪大学文学部を当番校として大阪ガーデンパレスで開催されました。

同会議には、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、広島大学及び九州大学の文学部長の出席並びに本学人間科学部副学部長がオブザーバーとして出席しました。また、文部科学省からは、指導及び助言者として、高等教育局国立大学法人支援課の三浦和幸課長補佐が出席されました。

会議は、三浦課長補佐から、「国立大学法人等の組織・業務全般の見直し」、「第2期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の配分ルール」、「『経済危機対策』に関する補正予算案(高等教育局関係分)」及び「厳正な学位審査体制等の確立」について、配付資料に基づき説明があった後、質疑応答が行われ、国立大学の機能別分化の促進や国立大学法人の教育研究活動の支援等に関して、活発な意見交換が繰り広げられました。

また、同会議の協議事項として、「留学生30万人計画へ



説明を行う三浦課長補佐

の対応(教育計画)及び「若手研究者の研究環境、就職に関する諸問題」について、各大学の状況等が紹介された後、質疑応答が行われ、今後の各大学における取組みにとって、大変有意義なものとなりました。

(文学研究科・文学部)

平成21年度  
国立九大学法・経学部長会議、法科大学院長会議、事務長会議

平成21年度国立九大学法・経学部長会議を6月4日(木)、法科大学院長会議、事務長会議を6月5日(金)に大阪大学を当番校として大阪ガーデンパレスで開催されました。

同会議には、北海道大学、東北大学、一橋大学、名古屋大学、京都大学、神戸大学、九州大学、大阪大学の法学部長、経済学部長、法科大学院長等が出席しました。(東京大学は都合により欠席)

法・経学部長会議では、午前の全体会議においては「大学院のFD(大学院教育の実質化)について」等をテーマとして協議を行い、午後からは文部科学省高等教育局専門教育課長の藤原章夫氏から、「法・経済学部及び大学院教育の現状と課題について」と題した講演があり、質疑応答



や情報・意見交換が熱心に繰り広げられました。引き続き、法学系分科会では「研究者養成の現状と課題



について」及び経済学系分科会では「非常勤講師の必要数の確保について」等をテーマとして協議が行われました。

そして、2日目の法科大学院長会議では「法科大学院と法学部の関係について」等、事務長会議では「事務改革における検討状況について」等をテーマとして協議が行われました。

各会議とも、各大学から状況報告が行われるとともに活発な議論が交わされ、2日間の日程を終えました。

(法学研究科・法学部、経済学研究科・経済学部、高等司法研究科)

理学研究科・理学部  
セクシュアル・ハラスメントに関する研修会

理学研究科・理学部においては、教育研究活動で十分な成果を上げ、社会的使命を果たしていくために、男女の区別なく、全ての者が互いに尊敬し合い、対等にコミュニケーションを行い、平等に能力を発揮し、協力し合う環境の整備が必要と考えております。この環境整備の一環として、セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程を設け、理学研究科等セクシュアル・ハラスメント対策委員会並びに部局相談員を置き、セクシュアル・ハラスメントの防止に研究科・学部を挙げて取り組むとともに、平成12年から毎年、新人教職員・学生を対象として「理学研究科・理学部セクシュアル・ハラスメントに関する研修会」を行っております。

本年度は、6月15日(月)に青木あさ代氏、6月22日(月)には杉本志津佳氏の2名の大阪大学セクシュアル・ハラスメント専門相談員を講師としてお招きし、「セクシュアル・ハラスメントを防止するために～現状を知り、自分ができることを考える～」と題した内容で理学部 D501 講義室を会場として講演を頂きました。

研修会当日は、渡會 仁理学研究科等セクシュアル・ハラスメント対策委員会委員長の司会により、東島 清研究科長の挨拶があり、引き続き各講師から具体的な事例を想



青木専門相談員による研修風景

定した題材を基に、相談を受けた場合に自分ができることは何かを研修参加者自身が考えるケーススタディを交え、防止するために知っておかなければならないこと、被害に遭った場合の相談体制について講演をしていただきました。

両日で約260名の参加者があり、非常に熱心に聴講する姿が多数見られ、セクシュアル・ハラスメントの防止に対する意識を高めることができました。

(理学研究科・理学部)

## ナノサイエンスデザイン教育研究センター 発足記念式典・記念講演会

ナノサイエンスデザイン教育研究センターの発足を記念して、6月10日(水)に豊中キャンパスにて記念式典、講演会、祝賀会、センター実習設備公開が学内外から約140名の出席のもとで行われました。講演会は森田清三工学研究科教授の司会で、川合知二産業科学研究所教授の「グリーンナノサイエンス・ナノテクノロジー」、柳田敏雄生命機能研究科教授の「一分子ナノバイオサイエンス - ゆらぎと生命機能 -」、金森順次郎元総長((財)山田科学振興財団理事長)の「磁性と物質設計」と題する講演が行われ、聴衆を魅了しました。

式典は、原田 明副センター長代理(理学研究科教授)の司会により、まず西田正吾理事・副学長の式辞でセンター発足に至る経緯を含む趣旨が説明され、小泉潤二理事・副学長による総長挨拶、戸部義人基礎工学研究科長の連携部局代表挨拶、羽鳥政男国立大学法人支援課専門官による



金森元総長による記念講演

文部科学省高等教育局長来賓祝辞、鷹木 洋大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム理事((株)村田製作所)の来賓祝辞が述べられ、最後に、伊藤 正センター長によるセンター概要紹介が行われ、盛会裏に終了しました。



西田理事・副学長による式辞

引き続き祝賀会は、小川久仁センター特任教授の司会により、伊藤センター長の開会の辞、山下洋文部科学省研究振興局ナノテクノロジー・材料開発推進室長、山下勝比拡(株)東芝技術企画室理事の来賓祝辞、金森元総長の発声による乾杯の後、多数参加されたコンソーシアム関係者の挨拶も交えた歓談が和やかに行われ、原田教授の閉会の辞をもって無事締めくくりました。なお、上述のコンソーシアムは本センターの社会人教育を中心とする産学連携相互人材育成活動を物心両面で支える一般社団法人組織であり、現在関連企業21社の協力からなっています。

(ナノサイエンスデザイン教育研究センター)

## 「酸性紙劣化と脱酸性化対策」研修会

附属図書館では、6月12日(金)に近畿地区国公立大学図書館職員を主たる対象として研修会「図書館における資料保存 - 酸性紙劣化と対策について -」を開催しました。

研修会には、学内図書館職員のみならず、近畿圏内の大学・公共・企業図書館職員、教員等、計73名が参加しました。

研修会では、昨年3月から埼玉でブックキーパー大量脱酸システムの稼働を開始した(株)プリザベーション・テクノロジー・ジャパンから横島文夫氏と清水理穂氏を講師として招き、酸性紙劣化のメカニズム、脱酸性化技術の歴史や世界的動向などの基礎知識を学んだ後、持参資料のpH測定、ハンドスプレーによる脱酸、和紙と正欝糊を使用した簡単な補修技術の実習を行ないました。

「酸性紙問題は言葉しか知らなかった」世代から、「資料の寿命と延命化」について質問をする世代まで、幅広い年代の図書館職員が参加しましたが、図書館の中でもきちんとした知識の継承と対策がとられていないことが認識されました。



附属図書館では昨年度から「図書関係業務研修会」として、図書館職員が継承いくべき知識や技術に焦点を当てた実習を含む研修会を企画し、近畿地区国公立大学図書館にも公開しています。特に講義の後に体験する実習は好評で、継続的な研修会を期待する声が高く、今秋には古典籍資料(洋書編)の取扱い研修会が予定されています。

(附属図書館)

## 平成21年度 大阪大学主任研修(新任)

平成21年度大阪大学主任研修(新任)が、6月17日(水)から19日(金)までの3日間にわたりコンベンションセンターで行われました。

本研修は、本学において新たに主任になった者33名を対象として、その立場と役割を再認識させるとともに、マネジメントに関する理解を深め、職務に対する応用を図る。また、自己啓発の指針を確立させることにより職員の資質の向上を図ることを目的として、実施されたものです。

開講式では、月岡英人理事・副学長から、主任という職よりも視点を高く持つこと、日々の仕事において業務改善の積み重ねを行っていただきたいなど、激励の言葉がありました。その後、外部の研修講師により実習形式にて研修が行われました。

受講生は、普段と異なる雰囲気の中、講義、実習を通じて日常業務に潜む問題を発見し、解決までのプロセスについて理解を深め、主任に求められる役割について学び、また、総合演習においては、実際に起こりうる演習例につい



月岡理事・副学長

て、活発に意見交換を行いました。

受講生全員が意欲的に課題に取り組み、所定の課程を修了しました。

(総務部人事課)

## 平成21年度前期 一年生クラス代表懇談会

平成21年度前期一年生クラス代表懇談会が6月19日(金)昼休み(12:10 - 12:50)に、大学教育実践センター6階大会議室で開催されました。この懇談会は、センター専任教員と学生のクラス代表で構成され、授業・カリキュラムや学習環境など大学教育実践センターが関係する問題全般について、センター専任教員と学生で話し合うために前期・後期に各一回開催されているものです。

今回は短い時間で効率よく議論できるように、クラス代表に事前アンケートを実施し、そのまとめを参考にして進められました。出席者は、クラス代表の学生61名、専任教員20名、教務係2名に加え、多様な意見に対応できる



ように、学生部から上古殿学生支援課長、KOAN 関係では脇坂情報推進部情報基盤課専門職員の両氏にも出席いただきました。

はじめに司会の山成数明教育実践研究部長から進行の説明がおこなわれ、次に当懇談会の開催通知をどのような手段で知ったかが挙手によって調べられました。その結果、大多数の学生はメールで知り、残りの少数はポスターで知ったようで、センターHPを見た学生は皆無でした。続いて工藤真由美センター長から挨拶が述べられ、ステューデント・コモンスの開設予定やその説明会などについてアナウンスがなされました。次に、事前に集められていた各クラス代表の意見全般に対して、服部憲児准教授(FD推進部門副部門長)及びKOAN 関係について脇坂氏から回答と説明があり、クラス代表からは、「用事や相談があるときにどの部署に行けばよいかわからない」「縛りがあり履修したい授業を履修できない」「授業評価や単位の認定基準がよくわからない」「箕面キャンパス行きのバスのタイミングが良くない」など、多岐にわたる意見・要望が出されました。なお、当日出された意見・要望は、事前アンケート結果と一緒にまとめ、回答を加えてセンターHPに掲載する予定です。

(大学教育実践センター)

## 名誉教授招待懇談会

本年度の名誉教授招待懇談会が、6月25日(木)共通教育本館(イ号館)イ講堂において、110名の名誉教授出席のもと開催されました。

懇談会に先立ち開催された施設見学会では、本年5月に竣工した附属図書館総合図書館(本館)ラーニング・コモンズの見学が行われました。

懇談会は、鷲田清一総長の挨拶で始まり、秋の例会以降に逝去された先生方(名誉教授)への黙祷、新名誉教授及び大阪外国語大学名誉教授の紹介、春の叙勲で瑞宝中綬章を受章された高田 敏名誉教授(法)からの代表挨拶が行われました。

次いで、鷲田総長から「大阪大学の近況報告」と題して、第8回大阪大学フォーラム、中之島アート・アセンブリー



鷲田総長の近況報告



高田名誉教授

の集い、第2回三大学(京都大学、大阪大学、神戸大学)連携シンポジウム、歴史セミナー「緒方洪庵の生きた時代」、司馬遼太郎記念学術講演会などの開催、大阪大学グラウンドプランの策定、全学多目的ディスプレイ「O + PUS (Osaka university + Panasonic Universal Sight)」の設置など、ここ最近の本学における主要な事項について報告がありました。

続いて開かれた懇親会では、鷲田総長による役員及び部局長等の紹介の後、山賀禮一名誉教授(歯)による乾杯が行われ、出席者は互いの近況などを話題に旧交を温めながら、終始和やかな雰囲気の中で懇談が行われ、盛会のうちに終了しました。

(総務部総務課)

## 平成21年度 国公立大学附属病院医療安全セミナー

医学部附属病院では、6月24日(水)から6月26日(金)までの3日間にわたり、特別教育研究経費による「国公立大学附属病院医療安全セミナー」(文部科学省後援)をコンベンションセンターにて開催しました。

このセミナーは、国公立大学附属病院において病院全体の医療安全を担う医師、看護師、薬剤師、事務職員等を対象として実施され、全国から217名が参加しました。



中島教授

セミナーは、高杉英一理事・副学長及び林 紀夫医学部附属病院長の挨拶に始まり、大学病院における医療安全とその教育をテーマに、まず、新木一弘文部科学省高等教育局医学教育課長、堀 裕行厚生労働省医政局総務課医療安全推進室医療安全対策官の両氏から国の医学教育、医療政策についてそれぞれ講演がありました。

続いて、中島和江病院教授(医学部附属病院中央クオリティマネジメント部)による「医療安全の現状と課題」と題した講演を始め、芳賀 繁教授(立教大学現代心理学部)、田中龍郎部長(全日本空輸(株)グループ安全推進部)、長谷川剛教授(自治医科大学附属病院医療安全対策部)など各方面の専門家から安全に関する学際的な知見についての講演がありました。また、医療安全教材提供の場として参加型セッション「リフレッシュセミナー」を実施し、参加者との活発な意見交換が行われました。

参加者アンケートでは、「医療安全の知見が深まった」や「来年も参加したい」等の高い評価を得ており、参加者に有意義な情報を伝達できたと考えております。

(医学部附属病院)

## 大学院国際公共政策研究科 創立15周年記念式典

国際公共政策研究科は、法学、政治学、経済学を中心とする学際的で先端的な教育を行う新しい教育研究組織として平成6年に設置され、本年6月をもって創立15周年を迎えました。これを記念して6月26日(金)に本学中之島センターにおいて、Edward Dong 在大阪・神戸アメリカ合衆国総領事館総領事をはじめ、政界、財界、学界などから多数の関係者が出席し、創立15周年記念式典、記念講演会及び祝賀会を開催しました。

式典に先立って行われた記念講演会では、外務省外務事務次官の藪中三十二氏から「日本外交と国際公共価値」と題して、北朝鮮をめぐる日本外交の喫緊の課題などについて講演が行われました。



記念講演をする藪中外務事務次官

て講演が行われました。

式典では、松繁寿和国際公共政策研究科長の式辞に始まり、鷲田清一総長の挨拶、曾根宏司朝日新聞大阪本社代表補佐、中尾敏充法学研究科長・法学部長の祝辞が述べられた。

続いて開催された祝賀会においては、高杉英一理事・副学長、黒澤 満名誉教授の祝辞の後、金森順次郎元総長の乾杯により始められ、途中国際公共政策研究科15年間の歩みのスライド上映、阿部武司経済学研究科長・経済学部長及び修了生による思い出のスピーチなどが行われ、和やかな雰囲気の中、盛大に創立15周年を祝いました。



式辞を述べる松繁研究科長

(国際公共政策研究科)

## 平成21年度 セクシュアル・ハラスメント相談員研修会

平成21年度セクシュアル・ハラスメント相談員研修会が、6月24日(水)及び6月29日(月)に大学本部棟301会議室及び大学教育実践センター大会議室において、実施されました。

この研修は、セクシュアル・ハラスメントにかかる全学相談員及び部局相談員に対して、それぞれの役割等について理解いただき、セクシュアル・ハラスメントの相談を受けるために必要な知識等を理解いただくことを目的として、37名が参加して実施されました。

研修では、セクシュアル・ハラスメント相談室長の東島 清理学教授から挨拶の後、セクシュアル・ハラスメント相談体制について、相談室副室長の霜田 求医学系研究科准教授及び藤岡 穠文学研究科教授から説明が行われ、引き続き、相談室の小田切由里、中野冬美、周藤由美子、植木美恵子専門相談員により「セクシュアル・ハラスメント相談を受けるにあたって - 相談者を傷つけないた



めに - 」と題する講義とロールプレイが行われました。

受講者は熱心にメモを取るとともに、活発にロールプレイなどが行われ、好評のうちに終了しました。

(総務部人事課)

### 第13回 APRU年次学長会議

本学が加盟するAPRU (Association of Pacific Rim Universities; 環太平洋大学協会) 第13回年次学長会議が、6月28日(日)から30日(火)までカリフォルニア工科大学 (Caltech) で開催され、本学から辻 毅一郎理事・副学長 (国際交流室長) 他4名が出席しました。

APRUは環太平洋地域を代表する大学の学長で構成される多国間ネットワークのひとつで、環太平洋地域社会にとって重要な、経済発展、技術移転、大気汚染等の諸問題に対し、教育・研究両分野から相互に協力・貢献することを目的として1997年に設立され、加盟大学数は16カ国42大学にのぼります。

今年の年次学長会議は“Grappling with Global Challenges”



ロスアンゼルス近郊在住の同窓生との懇親会



APRU/APM (Annual Presidents Meeting; 学長年次総会)の様子をメインテーマとし、Caltech教授でノーベル化学賞受賞者のAhmed Zewail氏をスペシャルゲストとした初日の歓迎晩餐会に始まり、翌29日からは、参加学長によるプレゼンテーションや分科会などのプログラムが続きました。米国サン・マイクロシステムズ社共同設立者の一人であるVinod Khosla氏の講演などもあり、大変充実した内容となりました。

また、会議開催直前には、日本の加盟大学間の情報交流会やロサンゼルス近郊の本学同窓生との懇談会が実施されるなど、関係者との交流を深める良い機会ともなりました。

(国際部国際交流課)

### ハラスメント防止に関する講演会

医学系研究科保健学専攻では、7月1日(水)にハラスメント防止ワーキング主催による教職員及び大学院生を対象とした講演会を開催しました。講師には、高等司法研究科



特任教授で弁護士の南川博茂先生をお招きし、「アカハラ、パワハラとは?! - 教育も研究も人と人 - 裁判例から学ぶこと」についてご講演いただきました。

講演では、先生の弁護士としての豊富な経験から、様々なハラスメント事案を過去の判例に基づいて具体的に紹介され、分かりやすく説得力がある内容で、約100名の参加者全員が大変興味深く聴講した1時間でした。

ハラスメント防止のためには、自らを省みて相手の立場に立って考えること、日々のコミュニケーションが重要であることなど、基本的ですが普段忘れがちなことについて改めて気づかされ、参加者1人1人がハラスメント防止に対する意識を高める機会となりました。

今後も引き続き、保健学専攻全体でハラスメント防止について取り組んでいく予定です。

(医学系研究科・医学部)



大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所  
開設記念シンポジウム及び記念式典・祝賀会

(トピックスの続き)

会場をリーガロイヤルホテルに移して行われた記念式典・祝賀会では、遠山研究科長の式辞に始まり、鷲田清一総長の挨拶を西田正吾理事・副学長が代読、徳永保高等教育局長の祝辞を義本博司高等教育局大学振興課長が代読の後、

本研究科をともに構成する連携大学を代表して中村信一金沢大学長、寺尾俊彦浜松医科大学長からそれぞれ挨拶が述べられました。祝賀会では来賓の合田隆史総括審議官をはじめ、約100名の大学関係者が新たな研究科の門出を祝いました。



義本大学振興課長



中村金沢大学長



寺尾浜松医科大学長



合田総括審議官

(大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所)

第3回  
障害学生支援室カフェ

7月7日(火)に第3回障害学生支援室カフェ「オアシス」上映会がコンベンションセンターにおいて開催されました。オアシスは、脳性麻痺者である女性と前科者である男性とのラブ・ストーリーです。恋人たちの物語を鑑賞するのにふさわしい晴れた七夕の午後でした。今回は、本学に在籍する脳性麻痺者である河合 翔さんをカフェマスターに迎え、カフェ開催から終了までの司会もしていただきました。

上映後は、河合さんを囲み映画の内容だけでなく障害者の恋愛や結婚にまで話題が及び、終了予定時間を過ぎてでもなお議論が続きました。カフェ終了後に記入していただいたコメントシートには、「大学時代の衝撃的な思い出も話ってください、非常に問題意識を持って話を聞くことができました。」「自分では気付かない他の人の見方が聞けて興味深かったです。」「インパクトのある映画でした。もっと話せる時間があると良かったですね。」などの感想がありました。

(学生部キャリア支援課)



グループ討議をする参加者

## 高等司法研究科・ 法学研究科附属法政実務連携センター主催公開講義

6月30日(火)に、金融庁審議官の細溝清史氏を講師としてお迎えし、公開講義「市場と政府 金融の場合 (第1部・第2部)」を開催しました。今回は2つのテーマについて約3時間にわたり講義をしていただきました。

第1部では、金融市場に関する基本事項の説明から、市場への規制の必要性やその際の政府の役割について、具体例を交えてお話されました。金融行政の最先端でご活躍されている先生の丁寧な解説を通して、参加者の多くが、漠然と理解していた市場のメカニズムを具体的に把握することができたようでした。第2部では、今年の国会で成立したばかりの「金融商品取引法の改正法」と「資金決済法」の2法を取り上げられ、前者については格付け会社規制及び金融ADRの創設を、後者はプリカ法の改正を中心に、詳細な資料にもとづいてご説明くださいました。



参加者からは「金融市場の信頼性の確保を根底から支える政府の役割について理解できた」「金融市場を多角的に知ることができた」「金融市場に関する知識をさらに深めていきたいと強く感じた」等の感想が寄せられました。

7月7日(火)に、経済産業省商務情報政策局情報通信機器課長の住田孝之氏を講師としてお迎えし、公開講義「グリーンITの最新動向」を開催しました。

講義では、グリーンIT政策の考え方やその推進策としてのエコポイント制度、グリーンITの今後の展開についてお話していただきました。グリーンITの概要に加え、現在の環境対策である排出量規制の根本的な問題点とその解決策、昨今話題となっているエコポイント制度の背景にある環境貢献を試算・評価する新たな枠組み、日本がこれからとるべき環境保護のあり方の本質について語られ、特に国としての仕組み作りが将来への布石として大切である点を繰り返し丁寧に説明されました。参加者は第一人者である住田先生から直接お話を伺えるということで熱心に講義に聞き、各々が自らの姿勢や視点を見直すまたとない機会を得たようでした。

参加者からは「制度や物事は一段階上の目的があるとい



うことにはっとさせられた」「現在の制度に対し、批判を持った視点でみる必要性を強く感じた」「日本、世界のために実効のあるルール作りに関わりたいと思った」等の感想が寄せられました。

(高等司法研究科、法学研究科・法学部)

## 人権問題に関する講演会

人権問題に関する講演会が7月10日(金)に工学部サントリー記念館メモリアルホールにおいて開催されました。



この講演会は、毎年7月及び12月に本学の人権問題啓発行事の一環として開催されているもので、今回は人間

科学研究科の志水宏吉教授を講師に招き、「教育における人権 - ニューカマー外国人問題から - 」と題してご講演いただきました。

講演会では、日本における外国人教育問題の概要や、統計データを基にした具体的な傾向、外国人学生の増加に伴い必要となる学校文化の変革に向けての考え方等について事例をまじえてお話いただき、講演終了後には質疑応答が行われるなど大変有意義な講演会となりました。

当日参加した約70名の教職員・学生は最後まで熱心に聴講し、外国人教育問題に関する知識を深めることができました。

(総務部総務課)

箕面キャンパス  
「夏まつり09」 30～Hot!motto!summer～」で賑わう!

7月11日(土)に、箕面キャンパスにおいて「夏まつり09」30～Hot!motto!summer～」が開催されました。

この「夏まつり」は、旧大阪外国語大学から数えて実に29年間にわたり学生が組織する「夏まつり実行委員会」の企画により開催されてきた行事です。

今年も近接する粟生間谷地区の他、近隣地域からもご家族連れを含む大勢の一般参加者にご来場いただき、延べ参加人数は4,645人に及びました。

直前まで心配された天候も、実行委員会委員や参加者の熱意からか、やや曇りがちの空模様ではありましたが、雨を見ることなく、グラウンドや中庭では多くの模擬店が出店しアジア、中近東、ヨーロッパなど様々な民族料理やドリンク等の提供や、各国の国旗をモチーフにした顔のペイントなど国際色豊かな出店が建ち並び多数の行列ができていました。

また、ステージではバンド演奏、民族衣装コンテスト、ダンスの披露、チャリディング演技、浴衣美男美女コンテストが行われ、中庭ステージでは吹奏楽団や太鼓の演奏、舞踏等が行われました。

さらに、外国語学部A棟企画でも、各講義室を会場として邦楽やジャズの音楽演奏、フラメンコやベリーダンスといった民族舞踊の披露や各種サークルの展示等が行われ、



盆踊り(グラウンド)

来訪者を楽しませました。

そして、夏まつりのメインイベントである「盆踊り」が、夕方の午後5時半から2時間にわたり行われ、祭り気分を盛り上げるべく、飾り着けられた提灯のもと、グラウンドの中心におかれた櫓を囲み、この日のために住民の方に盆踊りの指導を受けた実行委員や学生、外国人留学生、地域住民の方々が一緒に何重にも大きな輪になって踊りを楽しみ、大変な盛り上がりとなりました。

(21世紀懐徳堂)

第10回(平成21年度)  
課外研究奨励費伝達式

第10回(平成21年度)課外研究奨励費の伝達式が、鷲田清一総長、小泉潤二理事・副学長、大垣一成学生生活委員会委員長等の出席のもと、7月16日(木)本部棟301会議室において行われました。

課外研究奨励費は、「学部学生の研究意識の向上」を目的とし、個人又はグループ単位の学生自身による正課以外の研究テーマを募集し、独創的かつ意欲的であると認められたテーマに対して授与されるものであり、今年度は19件の研究テーマの応募があり、7件が採択されました。



伝達式では、初めに大垣委員長から選考経過について説明があり、続いて鷲田総長から受賞者に対して賞状授与と講話があり、その後、各受賞者から研究の抱負等が述べられ、終始和やかな雰囲気の中終了しました。

今年度採択されたテーマ

- ・無尾翼滑空機の安定性の向上 ～鳥人間コンテスト優勝を目指して～
- ・学生フォーミュラ車両を用いたドライバー特性及び時間応答を考慮した燃費改善に関する研究
- ・マスキング錯視を利用したヒト視覚情報の時空間処理に関する研究3 - マスキングに関する視覚中枢の同定 -
- ・独創的な生命システムの構築
- ・畿内における群集墳の比較研究 一須賀古墳群の測量調査を通じて
- ・国際法模擬裁判大会への取り組みを通じた国際法の研究
- ・仏教を背景とした寄付行為から見る二国間の比較 - タイとカンボジアを事例として -

(学生部学務課)

## 在阪報道各社と大阪大学との懇談会

7月14日(火)に、本学の最新の教育・研究活動について情報発信するとともに、報道関係者との意見交換を目的とした「在阪報道各社との懇談会」が中之島センターで開催されました。



中之島センター9階の会議室において開催された懇談会には、本学からは鷲田清一総長をはじめ、各理事、幹事及び総長補佐等が、報道関係からは9機関から12名の出席がありました。鷲田総長の挨拶の後、9月26日(土)に大阪大学・上智大学主催で京都にて開催予定の「World wide Views in JAPAN」について、コミュニケーションデザイン・センターの八木絵香特任講師から説明があり、続いて報道各社との質疑応答が行われました。

また、本年度、大阪大学が採択されたグローバルCOEプログラムと、国際化拠点整備事業(グローバル30)について、それぞれ担当の理事・副学長からの説明及び質疑応答も行われました。

引き続き、交流サロンにおいて懇親会が催され、大学執行部との情報交換が活発に行われました。

(企画部広報・社会学連携事務室)

## 第41回大阪大学中之島講座夏季講座スペシャル「抱きしめまっせ 天神祭」

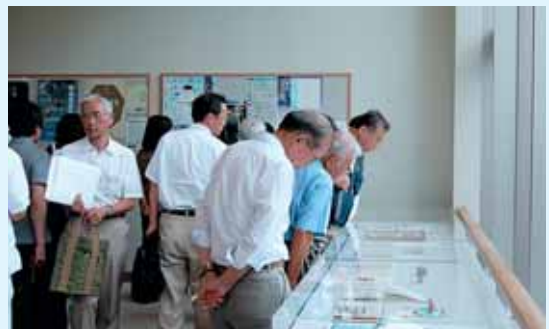
7月20日(月・祝)に、第41回大阪大学中之島講座夏季講座スペシャル「抱きしめまっせ 天神祭」が、中之島センター佐治敬三メモリアルホールで開催されました。

大阪大学中之島講座は、大阪大学の研究成果を社会に還元する一環として「開放講座」という名前で昭和43年に始まり、平成16年に「大阪大学中之島講座」と名称変更し、今年で通算41回目を迎える公開講座です。今年の講座の特色として、例年開催する秋季講座とは別に、大阪夏の風物詩「天神祭」を更に楽しんでいただくために 夏季講座スペシャル を企画したものです。

当日は、池田辰夫中之島講座運営委員会委員長の司会のもと、武田佐知子理事・副学長の挨拶で始まり、総合学術博物館の橋爪節也教授による「天神祭を描いた絵いろいろ～華の浪速の色模様～」に続き、コミュニケーションデザイン・センターの高島幸次招へい教授による「天神祭の歴史と構造～御迎人形の楽しみ方～」の講演が行われました。180名近くの参加者は、講演を熱心に聴講した後、高島招へい教授の指導による「大阪じめ」の講習を受け和気満々



牛若丸(wakamaru)のデモ



展示品コーナー



講演の様

のうちに閉会しました。

講演と併行し、10階ロビーでは天神祭を描いた絵画「天満天神祭(大阪)」(宮本順三画)、関連スケッチ、大阪パノラマ地図等の展示が行われた他、講演終了後には、1階ロビーにおいて21世紀版御迎人形の牛若丸に扮したロボット(wakamaru:三菱重工業製)による「大阪じめ」のデモンストレーションが行われる等、盛りだくさんの内容でした。

(21世紀懐徳堂)

## 浴衣姿で安全祈願

天神祭の「阪大船」出船に先立ち、7月10日(金)には、天神祭の本宮である大阪天満宮に参拝し、本殿において武田佐知子理事・副学長以下、学生、教職員総勢42名が船渡御の安全祈願と阪大船の無事出船を祈念しました。

船渡御参加の初年度より、工夫を凝らした参拝を行ってきましたが、今年は、北新地の元芸妓で日本舞踊西川流師範でもある西川梅十三さんにご協力いただき、北新地の現役芸妓さんたちが総出で「北新地芸妓稽古場」において本学学生、教職員に浴衣を着付けていただき、徒歩で天満宮に移動し、本殿参拝を行いました。参道を歩く姿に近隣の方々も足を止め、大阪大学をアピールする絶好の機会となりました。



この日、初めて浴衣を着る学生もいましたが、プロの芸妓さんに着付けていただくことで、正しい着こなしを身につけ、和の文化に親しむ機会になりました。

(企画部広報・社会学連携事務室)

## 「阪大船」今年も天神祭船渡御に出船

(トピックスからの続き)

阪大船には、熊谷信昭、宮原秀夫の歴代総長をはじめ、卒業生、現教職員、育友会の方々、留学生等総勢172名が乗船しました。また、旧制浪速高等学校、旧制大阪高等学校両同窓会の方々も乗船されました。

毎年恒例となった、出船前の船渡御参加4大学(関西大学、京都産業大学、追手門学院大学)代表者によるエール交換は、京都産業大学の船上で、同大学出身の原田伸郎さんの司会にて行われ、各大学の理事長、学長が互いに挨拶、エールを送りあい、各大学オリジナルの法被などを交換し、和やかな雰囲気での大学間交流のひとつとなりました。

船上では、落語家の林家染左さん(本学文学部卒業)、御伽衆の清水史子さん(大阪外国語大学卒業)による軽妙な司会進行で、天神祭の歴史や行き交う船についてわかりやすく説明を行い、乗船客を楽しませてくれました。

また、船上では恒例となった、本学応援団、チアによる演舞と軽音楽サークルのジャズの調べに乗船客からは温かい拍手が送られました。

阪大船の船上において、大阪大学ファミリーの団結力が一層強まった充実した約3時間の航行でした。

(企画部広報・社会学連携事務室)



## 平成21年度 大阪大学21世紀懐徳堂講座 春季講座

大阪大学は大阪市と包括連携協定を締結していますが、連携事業の一環として平成20年秋から「大阪大学21世紀懐徳堂講座」を開催しており、今年は4月～7月にかけて 春季講座 として計6講座を開講しました。



第1回(4/10)「交通からはじめるまちづくり」



第6回(7/3)「大阪弁と大阪人のイメージの変遷」

会場は、大阪市計画調整局のまちづくり情報発信施設「アイ・スポット」(淀屋橋odona内)で大阪のビジネスの中心地である中之島・御堂筋周辺オフィスワーカーを含めた市民を対象にしており、本学の教員が市民とともに語り合うことを基本スタイルとしています。春季講座は、若手の教員を中心に以下のような内容で開講されました。毎回多くの方の参加があり、質疑応答も活発に行われました。

- ・4月10日(金)「交通からはじめるまちづくり」  
(講師：松村暢彦 工学研究科准教授)
- ・4月21日(火)「こどものためのノこどもとともにする哲学」  
(講師：高橋 綾 CSCD 招へい研究員)
- ・5月11日(月)「江戸時代の人体解剖図譜 - 『解体新書』以前の解剖学 - 」(講師：井上 了 文学部懐徳堂センター員)
- ・6月1日(月)「足元から考えてみる 『臨床哲学』というアプローチ」(講師：家高 洋 文学研究科助教)
- ・6月18日(木)「広場としての深夜ラジオ 口承文芸研究からの現代文化論 」(講師：真鍋昌賢 文学研究科助教)
- ・7月3日(金)「大阪弁と大阪人のイメージの変遷」  
(講師：金水 敏 CSCD センター長・文学研究科教授)

なお、秋季講座(10月～12月)については詳細が決まり次第、21世紀懐徳堂ホームページに公開していきます。

(21世紀懐徳堂)

## 大阪大学天文同好会が日食観望会で地域市民と交流!

7月22日(水)、奄美大島等で日本の陸地では46年ぶりとなる皆既日食が、大阪でも約80%が欠ける部分日食が観察されることから、本学学生公認団体である天文同好会が、珍しい現象である日食現象を一人でも多くの方に望遠鏡で見たいと日食観望会を企画・実施しました。参加の呼びかけにあたっては、学内だけでなく地域の方々にまで対象を広げて21世紀懐徳堂のホームページやチラシで案内したところ、一般の方の参加者は、数日で希望枠を超えてしまい関心の高さが伺えました。

大阪大学総合学術博物館の園庭と屋上での観望会当日は、あいにくの小雨の降る曇天でしたが、日食のピークとなった11時頃には曇り空の合間から太陽の欠けていく様子が観察でき、参加者の歓声が上がりました。小学生からご年配の方まで参加者の多くが同好会の学生と、日食や望遠鏡に関して熱心に話し合っている姿が印象的でした。コメントも一般の参加の方からは『こういう機会をぜひまた作ってほしい。日頃縁のないと思っていた大学の学生さんと身近に話せて楽しかった。』学生側からも、『準備は大変だっ



たが、参加者の方に喜んでもらったことがうれしかった。こういう機会を大事にして後輩たちに引き継いでいきたいと思う』というコメントが寄せられました。天文活動の普及に役立てること、普段、接する機会のない本学の学生と一般市民の方々が触れ合う機会を作ることを目的としたこの会は、盛況のうちに終了することができました。なお、開催にあたっては21世紀懐徳堂が共催し、総合学術博物館が後援、学生支援課が協力して会をサポートしました。

(21世紀懐徳堂)

## 「研究支援員制度」利用者インタビュー

大阪大学は、平成19年度文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業による「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」の採択を受け、平成19年11月より「研究支援員制度」を開始しました。「研究支援員制度」とは、出産・育児・介護等で研究時間が確保できにくくなっている女性研究者の研究面での支援を行うため、同じ研究分野の院修了者・卒業生・学生を「支援研究者」や「研究補助員」として採用・配置するものです。これは同時に、支援する院修了者・卒業生・学生に対しても、ロールモデルと接することによりキャリア形成を促すことをねらいとしています。

今回は、本制度利用者として、工学研究科の赤井 恵助教と山下典子研究補助員にお話を伺いました。

### インタビューア

「本制度を利用して、感想はいかがですか。」

#### 赤井助教

「子育てが始まるとこれまで自分が使えていた時間が驚くほど少なくなってきます。実験室で装置に向かって長い時間を費やすこともできなくなり、考えも細切れに寸断されてしまいます。こういったことがどうしてもストレスになりがちですが、こうやって研究補助者を派遣いただくことで、大学をあげて応援していただいているのだなと、とても心強く思っている次第です。山下さんは明るくて、研究室にもすぐ馴染み、仕事もすぐ覚えて即戦力として活躍してくれました。それに研究室の飲み会には必ず参加してくれて、とっても楽しそうでした。私がこの期間第二子妊娠とその後の授乳で、飲み比べできなかったことが心残りです。」

#### 山下研究補助員

「この補助員制度に携わり、研究者としてまた研究グル



赤井助教（左）と山下研究補助員（右）

ープのリーダーとして活躍されている赤井先生の姿や生き方に大変感銘を受けました。この春の就職活動を通じて、自分の女性研究者としてのキャリアデザインについて大変悩みましたが、赤井先生との出会いのおかげで、産学の間ではありますが自分も赤井先生に負けないくらいの女性研究者になろうという勇気を持って、社会にでていくことができます。このような勇気を与えていただいた赤井先生や、この制度を紹介していただいた藤原先生に感謝しています。」

#### 赤井助教

「一緒に出世をめざそう。がんばろうね。」

#### 山下研究補助員

「ハイ。」

### インタビューア

「赤井先生と山下さんの息もぴったりという様子で、大変嬉しく思いました。お二人のご活躍を期待しております。ありがとうございました。」

（女性研究者キャリア・デザインラボ）

平成21年度  
学生定期健康診断実施状況

全学生を対象とした平成21年度学生一般定期健康診断は、4月3日(金)～5月8日(金)に豊中、吹田、箕面の各保健センターで実施されました。

今年度の受検者は18,052名、受検率は72.9%で、前年度より1.8%下降しました。

今後、受検率を向上させるために、HP等で開催日時などの情報を周知するなど、広報に努めたいと考えています。各部局においても受検率向上にご協力ください。

受検状況は、下表のとおりです。

部 局	学生数	受検者数	受検率
文学部(研究科)	1,333	698	52.4%
人間科学部(研究科)	1,074	739	68.8%
法学部(研究科)	1,095	648	59.2%
経済学部(研究科)	1,332	876	65.8%
理学部(研究科)	1,926	1,591	82.6%
医学部(研究科)	1,502	1,021	68.0%
医学部保健学科(研究科)	977	841	86.1%
歯学部(研究科)	611	317	51.9%
薬学部(研究科)	658	579	88.0%
工学部(研究科)	6,013	4,732	78.7%
基礎工学部(研究科)	2,693	2,358	87.6%
外国語学部	3,843	2,540	66.1%
言語文化研究科	337	177	52.5%
国際公共政策研究科	197	122	61.9%
情報科学研究科	442	338	76.5%
言語社会研究科	73	14	19.2%
連合小児発達学研究科	13	4	30.8%
生命機能研究科	269	225	83.6%
高等司法研究科	332	202	60.8%
微生物病研究所	13	7	53.8%
産業科学研究所	9	9	100.0%
蛋白質研究所	2	1	50.0%
社会経済研究所	2	2	100.0%
接合科学研究所	6	1	16.7%
留学生センター	9	9	100.0%
コミュニケーションデザイン・センター	1	1	100.0%
<b>計</b>	<b>24,762</b>	<b>18,052</b>	<b>72.9%</b>

歯科技工士学校	40	39	97.5%
---------	----	----	-------

(保健センター)



## ヒトとクスリとの間をフラフラと三十有余年

大学院薬学研究科教授 東 純 一

平成 21 年 3 月 31 日に定年退任を迎えられました、東純一先生の最終講義・定年退任記念講演が、「ヒトとクスリとの間をフラフラと三十有余年」と題し、4 月 5 日(日)、リッツカールトン大阪にて開催されました。

最終講義は、恩師山村雄一先生の「夢見て、行い、考えて、祈る」という言葉に始まり、自らモットーとされた「夢見て、試み、信じて、祈る」について語られました。

その後、昭和 46 年に大阪大学医学部を卒業されてから今日に至るまでの研究成果を、懐かしい思い出、さまざまな人々との出会い、30 年以上に及び外来通院下さった患者さんへの感謝の念とともに、随所に「ユニーク礼賛」の言葉を散りばめ、お話されました。

先生は、心不全とタウリンに関する研究、およびファーマコゲノミクスの臨床応用を研究テーマの両輪として活躍して来られました。また、臨床薬理学の第一人者として、

国内外より高く評価されておられます。退任後も、兵庫医療大学で研究を継続される予定であり、さらに個別化医療や医薬品の臨床開発に係わる起業の夢にも触れられ、「退任後も、もう一輪の凛とした花を咲かせたい。」との言葉で講演を締めくくられました。



(東純一教授定年退任事業会事務局 藤尾 慈)

## あずま じゅんいち

## プロフィール

略歴：昭和 46 年大阪大学医学部を卒業、大阪大学医学部内科学第三講座に入局。国立療養所近畿中央病院勤務を経て、昭和 48 年、大阪大学医学部内科学第三講座に帰局。昭和 50 年から米国テキサス大学生物医学研究所、バージニア大学医学部生理学部門に留学し、昭和 52 年帰国。昭和 56 年大阪大学医学部助手、昭和 63 年同講師、平成 7 年同助教授。平成 7 年大阪大学薬学部客員教授に昇任、平成 10 年大阪大学院薬学研究科教授。

学内では、健康体育部保健センター運営委員、大阪大学創立 70 周年記

念施設実行委員、適塾管理運営委員、医学系研究科将来構想委員など数々の委員を歴任し大阪大学に発展に尽力した。学外では、日本臨床薬理学会理事、日本薬理学会評議員、日本薬学会医療薬科学部会世話人、日本 TDM 学会理事などを務めた。また、第 23 回日本臨床薬理学会年会、第 21 回日本 TDM 学会年会、医療薬学フォーラム 2006、第 16 回国際タウリン会議を主催。Pharmacogenomics Journal、European Journal of Clinical Pharmacology、Current Pharmacogenomics & Personalized Medicine、Amino Acids の編集委員。

## 宮井 潔名誉教授「日本内分泌学会マイスター賞」受賞

宮井 潔名誉教授（医学部）が日本内分泌学会マイスター賞を受賞されました。本賞は、内分泌学にインパクトを与えた基礎的研究・大きな足跡を残した研究者に授与されるもので、本学関係者では、松澤佑次名誉教授、御子柴克彦元教授（現東京大学名誉教授）が過去に受賞されています。

今回の受賞は、宮井名誉教授が大学院生時代から50年を経た現在でもまだ続けておられる内分泌（ホルモン）分野での数々の国際的な研究成果のうち、特にライフワークとしている「先天性下垂体・甲状腺異常症の研究」が評価されたもので、4月25日（土）には授賞式の後、上記に - in vivo, in vitro, in silico から “ in multo ” へ - のサブタイトルをつけて受賞講演をされました。

受賞講演では、下垂体から分泌される糖蛋白ホルモン（生体内のあらゆる代謝や新生児の脳発達に必須の甲状腺ホルモン分泌を制御する甲状腺刺激ホルモン（TSH）と性腺刺激ホルモンから成る）のTSHおよび、その遺伝子転写調節因子（Pit-1）の「先天性欠損症」という二つの「新しい疾患単位」の発見と臨床像（in vivo）、その原因遺伝子など分子生物学的解析（in vitro）および立体構造のコンピュータシミュレーションによる病因の解明と糖蛋白ホル



モンの生物活性に重要な新しいモチ - フの提唱（in silico）さらには先天性甲状腺機能低下症を早期診断・治療してその心身障害を予防する新しいマス・スクリーニング法の開発と世界への普及、これに伴って新たに見出した「乳児一過性高TSH血症」や他の研究シ - ズ（造語の“ in multo ”）などについて、含蓄ある格言も混じえ傘寿とも思えぬ熱弁をふるわれて若い研究者をも魅了されました。

（医学系研究科・医学部）

## 松川正毅教授「尾中郁夫・家族法学的賞」受賞

3月21日（土）に、高等司法研究科長の松川正毅教授が尾中郁夫・家族法学的賞を受賞され、その贈呈式が5月29日（金）に法曹会館（千代田区霞が関）で行われました。受賞作は『医学の発展と親子法』（有斐閣・2008年12月）で、松川教授が長年にわたって生殖補助医療やDNA鑑定について親子法の観点からフランスの生命倫理法の展開を中心に研究してきた成果をまとめられたものです。同学術賞は民法・家族法分野で極めて権威ある賞であり、今年で第21回になるものの、そのうち8回につき「受賞該当者なし」とされるところにも現れているように、厳正な審査により授与される賞です。松川教授が研究科長の激務の傍らこのような栄誉に輝かれたことは、高等司法研究科及び法学研究科、さらには大阪大学にとっても名誉なことであると同時に、教育重視のロースクール時代になって法学の研究が困難になっていくなかで、今後の法学研究のあり方・方向性を示す出来事として、我が国の法学界全体のなかでも高く評価されるべきであると考えるところです。贈呈式での



松川教授（左から2人目）

挨拶のなかで松川教授はロースクール時代の法学研究について持論を述べられました。それは出席者全員の共感を呼びました。

（高等司法研究科）

## 関 達治バンコク教育研究センター長に「タイ王国マヒドン大学名誉博士号」授与

7月6日(月) 関 達治バンコク教育研究センター長(特任教授、名誉教授、元生物学国際交流センター長)が2009年のマヒドン大学名誉博士号授与者に選ばれ(2009年は計8名に授与)生物学名誉博士号を授与されました。

この名誉博士号は、関センター長のマヒドン大学生物工学分野への長年にわたる多大な貢献に対して贈られたものです。今回の授与者の中には、関センター長の他に2名の日本人も含まれていました。

授与式はタイ海軍コンベンションホールにてマヒドン大学の卒業証書授与式と同日に行われ、プミンポン国王陛下に代わりシリントン王女から直々に授与されました。授与式の前日には、式のリハーサル、ガウン授与式、祝賀会が開かれ、シリントン王女が出席される式に備えました。式当日は、シリントン王女の入場の後、8名に名誉博士号が授与され、その後2000名弱の学生への卒業証書授与、国王賛歌斉唱と宣誓が行われました。また、午後にはシリントン王女と名誉博士号授与者8名の会食が行われました。

タイ王国の国立大学では卒業証書は王室の方から授与されることになっており、多くの国民が王室関係者とこのような形でお会いできることは大変名誉なことだと考えています。今回の関達治センター長のシリントン王女からの名



マヒドン大学理学部関係者と(前列左から4人目が関センター長)

誉博士号授与も日本人が考える以上にタイ人にとっても喜ぶべきことであり、タイ人を含めた多くの方々からお祝いの贈り物や、パーティーへのご招待がありました。



名誉博士号証書

(海外拠点本部)

## 塩田陽一君「MORIS2009 Best Poster Award」受賞

基礎工学研究科物質創成専攻物性物理工学領域電子相関物理講座博士前期課程1年の塩田陽一君が、6月に開催された(社)日本応用磁気学会主催の国際会議・MORIS2009において発表をし、BestPoster Awardを受賞しました。

この賞は、本会議において最も優れたポスター発表を行った学生に対して授与されるもので、授賞式は、6月16日(火)に本会議のレセプションにて行われました。

授賞対象となった研究は、「Voltage control of magnetic anisotropy in Au /Fe(001) alloy / MgO junctions.」です。この研究は、強磁性金属の数原子層に電界を印加し、電界による磁化方向の制御に関する報告です。この研究では、室温でAu/ 超薄膜Fe/MgO/ ポリイミド /ITO 接合において電圧による超薄膜Feの垂直磁気異方性の変化の観測に成功しました。さらに超薄膜FeCo合金を用いることでアシスト磁界下での磁化反転の観測にも成功しました。磁化



方向を電界で制御することは、低消費電力性を有するデバイスの実現に繋がり、将来固体磁気メモリーなどへの応用が期待できるので、今後の発展が期待できます。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

## 新教授紹介

檜 垣 立 哉 (ひがき たつや)

大学院人間科学研究科



【略歴】

- 昭62. 3 東京大学文学部卒業
- 平 2. 3 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士課程修了
- 4. 3 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程退学
- 4. 4 東京大学助手文学部
- 6. 4 埼玉大学講師教養部
- 7. 4 埼玉大学講師教養部
- 8. 4 埼玉大学助教授教養学部
- 12. 4 大阪大学助教授大学院人間科学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院人間科学研究科
- 21. 8 大阪大学教授大学院人間科学研究科

所 属：大学院人間科学研究科人間科学専攻基礎人間科学講座  
 専門分野：哲学 / 現代思想、生命と環境の哲学

上 田 啓 次 (うえだ けいじ)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭59. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 59. 4 大阪大学医学部（内科学第一教室）において研究に従事
- 59. 6 大阪大学医学部附属病院において臨床補助の研修に従事
- 59. 7 医員（研修医）（大阪大学医学部附属病院）
- 60. 7 大阪大学医学部研究生（昭61.3まで）
- 60. 7 国立大阪病院臨床研修医（昭61.3まで）
- 平 2. 3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
- 2. 3 医学博士（大阪大学）
- 2. 4 日本学術振興会特別研究員
- 4. 4 大阪大学医学部（内科学第一教室）において研究に従事
- 4. 5 大阪大学医学部研究生（平4.5まで）
- 4. 6 米国カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校  
Postdoctoral Fellow
- 8. 1 大阪大学医学部研究生（平10.7まで）
- 10. 7 医員（大阪大学医学部附属病院）
- 11. 1 大阪大学助手医学部
- 11. 4 大阪大学助手大学院医学系研究科
- 13. 4 大阪大学助教授大学院医学系研究科
- 18. 7 浜松医科大学教授医学部
- 21. 7 大阪大学教授大学院医学系研究科

所 属：大学院医学系研究科感染免疫医学講座（ウイルス学）  
 専門分野：ウイルス学、分子生物学

## 鎌田武信名誉教授(医学部)逝去



本学名誉教授鎌田武信先生は、病氣療養中のところ、5月2日(土)にご逝去されました。享年75歳でした。永年のご功績に対し、従四位・瑞寶中綬章に叙せられました。

先生は、昭和9年3月1日に大阪にお生まれになりました。昭和33年3月大阪大学医学部を卒業後、直ちに大阪大学大学院医学研究科に入学され、昭和38年3月修了と同時に医学博士の学位を授与されました。昭和41年11月大阪大学医学部助手(第1内科学講座)に採用され、昭和51年7月同講師、昭和53年4月同助教授、昭和60年2月第一内科学講座教授に就任され、その後12年間にわたって第一内科講座を主宰されました。平成6年4月からは大阪大学医学部附属病院長、大阪大学医学部附属助産婦学校長として新病院の発展に御尽力されました。

先生は、最新のバイオメディカル・エンジニアリングに、バイオ・サイエンスを取り入れた“システムバイオメディシン”を提唱され、内科学、特に消化器病学における発展に大いに貢献されました。その中でも、肝再生や肝癌発生

における細胞内情報伝達機構の解析、B型・C型肝炎の肝炎発生機序とその治療法の開発、肝ならびに消化管病変における組織微小循環動態の検討などには、数多くの優れた業績を残されております。学会活動におきましても、日本内科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本ME学会、日本アルコール医学会をはじめ多くの要職を歴任され、これらの学会の会長として多大な貢献をされてこられました。

医学生や後進の医師あるいは後進の研究者に対しては、独創性と先見性に富んだ指導にたゆまぬ熱意と創意を注がれ、その結果、門下より多数の教授や病院の要職に多くの人材を輩出されました。また、大阪府医師会医学部運営委員として医師会員の生涯教育にも多大に尽力し、平成5年には医学教育功労者の栄に浴されました。医学行政面におきましても、文科省学術国際局学術審議会専門委員など顕著な貢献をされ、学内においても大阪大学医学部附属病院長として大いに手腕を発揮されました。

大阪労災病院病院長にご就任されてからは、勤労者医療・地域中核病院としての医療の発展に尽くされ、長年、日本職業・災害医学会の理事長を務められました。また、地域医療発展のため、会長として多くの病診連携会、市民公開講座を開催し、これらの草の根的啓蒙活動を通じて同地域の医療レベルの向上に、著しく貢献されました。

鎌田先生は、いつも「和」すなわち“厳しさをもつ相互理解、個人と全体との調和”を尊ばれ、ヒューマンイズムあふれる医療を目標とするよう、指導されてこられました。“人は人に生かされ、人は人の為生きる”は先生の座右の銘であり、“この言葉には他人に対する感謝と尊敬の念がこめられ、人間関係が最も重要であることが示されている、医師という職業に最もふさわしい言葉だと信じている”と説かれておられました。鎌田先生からのお教えとして、私達が一生心の中に持ち続けたいお言葉であります。

ここに、謹んで哀悼の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。(医学系研究科・医学部)

## 西村 健名誉教授(医学部)逝去



本学名誉教授西村 健先生は、5月29日(金)にご逝去されました。享年78歳でした。先生は昭和32年3月に大阪大学医学部をご卒業され、直ちに精神神経科学教室に入局され、「炭酸脱水素酵素の抗てんかん作用」の研究にて学位を取得され、昭和38年5月からノルウェーのオスロ市立ディケマルク病院中央研究所にてゲッティング先生のもとで周期性精神病の研究に従事されました。当時統合失調症の原因物質として脚光を浴びていたピンクスポットは人為的なアーチファクトであることを証明し、ネイチャーに論文を発表されました。

帰国後は神経病理学的手法に新たな生化学的手法を組み合わせるといふ斬新な手法を駆使して老年精神医学の研究を始められ、脳の老化により水溶性蛋白が不溶化している

ことを見出され、アルツハイマー病の生化学的研究の先鞭をつけられました。昭和53年8月に金子仁郎先生の後を継いで阪大精神科の第六代教授に就任され、生化学・生理学・心理学など幅広い領域での研究活動を展開されました。とりわけ老年精神医学分野では大きな業績をあげられ、アルツハイマー病脳における細胞骨格蛋白異常、西村式(N式)高齢者精神機能検査、抗知性薬(nootropics)の開発、多くの抗痴呆薬の臨床治験などにおいて多く業績が生み出され、阪大精神科は老年精神医学のメッカと呼ばれるようになりました。先生は、老年精神医学会理事長として我が国の老年精神医学の興隆に貢献されただけでなく、認知症学会、神経精神薬理学会、生物学的精神医学会、老年医学会などの学会理事を勤められました。

大阪大学の管理運営においても、大阪大学入学試験制度委員長、大阪大学医学部附属病院予算委員長をはじめ各種委員会委員として大阪大学並びに同医学部の発展に多大な貢献をされ、さらに文部省学術審議会専門委員、厚生省医師試験委員、厚生省医療関係者審議会専門委員として学術研究の振興、医療政策の遂行に寄与されました。先生は平成7年に大阪大学を定年退官され、甲子園大学に移られ、栄養学部教授、人間文化学部長、発達臨床心理センター長、人間文化研究科長、甲子園短期大学学長を勤められ、約10年間臨床心理士の教育に尽力されました。

先生は、四年前からがんと闘病生活を送っておられましたが、毎年の教室同門会「和風会」にご出席いただき、ご自分の生き様を以って、多くのことを弟子たちに伝えていただきました。ここに、謹んで哀悼の意を表します。

(医学系研究科・医学部)

## 井上 薫名誉教授(教養部)逝去



本学名誉教授井上 薫先生は、6月9日(火)、脳梗塞のため逝去されました。享年92歳でした。

先生は、大正6年3月28日に大阪府でお生まれになり、昭和15年3月に東京帝国大学文学部国史学科を御卒業されました。財団法人聖徳太子奉讃会研究生、浪速高等学校教授などを経られ、昭和24年6月に大阪大学助教授に着任され、昭和38年9月に大阪大学教授に昇任されました。教養部および大学院文学研究科において、国史学(特に日本古代史)を講じられ、学生・大学院生の教育に御尽力されました。昭和55年に定年退官された後は、昭和61年3月まで奈良大学教授、昭和58年4月から平成5年3月まで

堺市博物館々長を歴任されました。

先生の御専門は日本古代史です。政治と宗教との関係に研究の重点を置かれ、『行基』(昭和34年)、『日本古代の政治と宗教』(昭和36年)、『奈良朝仏教史の研究』(昭和41年)をはじめ、多数の研究成果をあげられました。なかでも『奈良朝仏教史の研究』は、写経所・東大寺・国分寺を奈良朝仏教史上に三位一体として捉え、それぞれの創立事情や成立過程、機構や機能、及び三者の関連などをめぐる諸問題を論じた大作で、東京大学より文学博士号を授与されています。

先生は学外でもめざましい活動をなされました。大阪付近に歴史学関係の学会がないのを遺憾とされ、昭和23年に大阪歴史学会、昭和28年に続日本紀研究会を結成されました。大阪府下の史料調査も精力的にこなされ、多くの市町村史編集に関与されました。堺市博物館々長のほかに、権原考古学研究所研究指導員、同研究所研究顧問、法隆寺文化財保存協議会協議員、財団法人東大寺南大門仁王尊像保存修理委員会委員、狭山池調査事務所理事を務め、地域の発展に寄与されました。先生は、史学会評議員、日本歴史学会評議員なども歴任され、昭和45年9月22日には「称徳天皇の伝記と功業」という題で御進講もされています。

先生の教育界・学界・地域における多大な御功績を偲び、ここに謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

(大学教育実践センター)

## 坂口 實名誉教授(基礎工学部)逝去



本学名誉教授坂口 實先生は、6月16日(火)、病気のため逝去されました。享年83歳でした。

先生は、昭和25年に東京工業大学応用数学専攻卒業、昭和28年同大学大学院特別研究生修了、昭和29年電気通信大学短期大学部講師、昭和33年同助教授、昭和40年電気通信大学助教授、同年大阪大学基礎工学部教授に着任されました。平成元年に停年退職され、大阪大学名誉教授の称号を授与された後、同年名古屋商科大学商学部教授に就任され、平成10年に退職されました。

研究においては、計画数学、特にゲーム理論、応用統計学、オペレーションズ・リサーチの分野の理論的研究において、斬新かつ数多くの業績を挙げ、同分野の発展に大きく貢献されました。ゲーム理論の分野では、静的および動的な非協力ゲームの理論に初めて戦略的情報の概念を導入され、その構造・価値などに数学的解析を加え、それらの不完備情報モデルへの拡張的応用も、世界に率先して試みられ、多くのユニークな成果を挙げられました。これらは数理経済学や社会学における研究の新傾向に対して先駆的刺

激剤となるものでした。応用統計学の分野では、統計的決定理論を手掛けられ、統計的最良手法におけるカルバック情報数の役割について発表された先生の諸定理は、この分野の重要定理となっています。オペレーションズ・リサーチの分野では、昭和36年に世界で初めて全情報秘書問題を動的計画法により解くことを試みられ、それ以来、より一般化された機会分析、すなわち斉時・非斉時確率過程上の最適停止問題、多人数多辺秘書問題、部分情報下での秘書問題などの分野において発表された50編を超える独創的研究論文は、社会・厚生経済学の分野にも広く応用し得るものとして、内外の多数の研究者の関心を呼び、今日の学界に一盛況をもたらしています。以上の研究は、約200編の学術論文・解説論文として、またこの分野における我が国初の専門書として出版され、計画数学の重要性を世の中に認識させ、また同分野の学問的地位を確立するのに大いに貢献しました。また学界、教育界、産業界の第一線で活躍されている門下生および外国人留学生を多数育成されました。

学外においては、日本オペレーションズ・リサーチ学会評議員、同理事、同関西支部長を歴任され、同学会のフェローになられました。日本数学会の名誉会員にもなられました。また日本数理科学協会理事をされ、同協会の論文賞を受賞されました。さらに国内外のいくつかの学術誌の編集委員、国際会議の計画委員をされ、ジョージワシントン大学客員教授、スタンフォード大学客員研究員を務めるなど、国際的にも活躍されました。

以上のように、坂口 實先生は、計画数学の領域において優れた業績を挙げられ、研究の第一線を生涯歩まれるとともに、教育および研究指導にも優れた手腕を発揮されて、国内外の学術の発展に多大の貢献をされました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

## 大学院学位記授与式

大学院学位記授与式を下記のとおり挙行します。

大学院学位記授与式

日 時：9月25日(金) 11:00～[10:20入場開始]

【10時45分までに入場のうえ着席願います】

場 所：大阪大学コンベンションセンター3階MOホール(吹田キャンパス)

同祝賀会

日 時：授与式終了後

場 所：大阪大学コンベンションセンター1階会議室

お席に限りがありますが、同伴者の方も授与式にご出席いただけます。

満席の場合は、同センター会議室において、授与式を映像でご覧いただくこととなりますので、予めご了解の程よろしくをお願いいたします。

開式後の式場への入場はお断りする場合がございますのでご注意ください。

車での来場はご遠慮下さい。

問い合わせ先 総務部総務課総務係 TEL:06-6879-7014

(総務部総務課)

## 第25回湯川記念講演会

日 時：10月3日(土) 13:00～17:00

場 所：大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール

対 象：高校生以上の学生及び一般の方々

定 員：先着190名

受 講 料：無料

主 催：大阪大学総合学術博物館湯川記念室

共 催：日本物理学会大阪支部

協 賛：日本物理教育学会近畿支部

高校生、一般の方を対象に、最前線の物理を紹介します。

13:00 - 14:30 「失われた反物質をめぐって」

三田一郎(神奈川大学工学部物理学教室教授)

15:00 - 16:30 「断層掘削研究から地震の本質に迫る」

廣野哲朗(大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻准教授)

申込方法：郵便、E-mailまたはFAXで、氏名(ふりがな)住所、郵便番号、電話番号、年齢、性別、職業をご連絡下さい。  
(ご連絡いただいた個人情報は、他に利用するものではありません。)

電話によるお申し込みは不可とさせていただきます。定員に余裕のある場合は、当日会場でも受け付けます。

〒560-0043 豊中市待兼山町1-1 大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念講演会係

E-mail: yukawa5@het.phys.sci.osaka-u.ac.jp (件名は「2009.10.3参加申込」でお願いします。)

FAX: :06-6850-5341

問い合わせ先 大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念講演会係 TEL:06-6850-5341(月～金 10:00～17:00)

大阪大学湯川記念室ホームページ <http://www-yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/>

(湯川記念室)

## World Wide Views in Japan



2009年12月に、デンマーク・コペンハーゲンにおいて「COP15（気候変動枠組条約締約国会議）」が開催されます。この会議は、1997年に議決された「京都議定書」の約束期間（2008年～2012年）の後の枠組みを決めるという重要な役割を持ちます。

今回、デンマーク技術委員会（Danish Board of Technology<sup>1)</sup>）の呼びかけにより、世界の国と地域で、COP15の交渉に当たる政府関係者に対して世界の市民の声を届けるための世界市民会議（World Wide Views on Global Warming；WWViews<sup>2)</sup>）が開催されることになりました。

この市民会議は、世界の市民が、同じ日（9月26日）に、同じ情報資料に基づき、同じ問いについて、同じ手法を用いて議論する試みで、世界の45カ国と地域において一斉に開催されます。テーマは、今後の地球温暖化問題に対して世界がどのような目標を立て、どのように問題の克服に取り組むべきか、です。

日本では、大阪大学と上智大学が主催で開催します。

企画の詳細については、World Wide Views in Japan ホームページ（<http://www-japan.net/>）をご参照ください。

また、World Wide Views in Japan の企画と連動して、大阪大学の学生が中心となって、学生版のWorld Wide Viewsを実施する企画が進んでいます。

日 時：9月30日(水) 10:00～17:00

場 所：豊中キャンパス イ講堂

申込は、ホームページ（<http://www-osaka.net/>）より受け付けています。

この企画については、現在も関心のある学生の参加者を募集中です。

1) <http://www.tekno.dk/subpage.php3?language=uk&page=forside.php3>

2) <http://www.tekno.dk/subpage.php3?article=1497&toppic=kategori11&language=uk&category=11>



（コミュニケーションデザイン・センター）



## 水都大阪2009記念シンポジウム 遊びをせんとや生まれけむ - 水都大阪の再生

水の都・大阪の復興を目指すシンボルイベント「水都大阪2009」を記念して、シンポジウム「遊びをせんとや生まれけむ - 水都大阪の再生」が開催されます。

シンポジウムのタイトル「遊びをせんとや生まれけむ」は、『梁塵秘抄』のよく知られた歌ですが、「水都大阪」とは、連日各所で展開される多様なイベントやワークショップによって、人が都市や川と遊び戯れ、さまざま感覚を開き、都市に「遊びの文化」のエネルギーを生み出そうとする壮大な祭りといえることができます。情報、記号、流行、スピードに対して、五感、身体を大切に作る人間社会構築へのキーワードを「遊び」と捉えたいと思います。シンポジウムでは、大阪の歴史・都市・文化の研究者、河川や環境の専門家、大阪を拠点に世界的に活躍するアーティストが国内外より一堂に会し、この「水都大阪」の企ての意義を多様な角度から考え、水都としての大阪の歴史、文化、交流等をテーマに語り合うことで、大阪の都市力の向上と発信を目指します。

日 時：9月22日(火・祝) 10:00 ~ 18:15

会 場：リーガロイヤルホテル(大阪) 大宴会場ロイヤルホール

定 員：300名(要予約) 入場料：1000円(日英同時通訳つき) 交流会参加の場合は別途2000円

主 催：大阪大学、水都大阪2009実行委員会 助 成：独立行政法人日本万国博覧会記念機構



### [プログラム]

- 10:00 - 開会あいさつ 平松邦夫(大阪市長/水都大阪2009実行委員会会長)
- 10:15 - 基調講演 鷲田清一(大阪大学総長)
- 10:45 - 問題提起 吉見俊哉(東京大学大学院情報学環教授)
- 11:00 - セッション1「河港・大阪と市民社会」・第1部
- 12:30 - 昼食休憩
- 13:30 - セッション1・第2部
- 15:00 - コーヒーブレイク
- 15:15 - セッション2「大阪の市民力・文化力 アートが都市をかきまぜる！」
- 17:15 - 総括講演 鷲田清一(大阪大学総長)
- 17:45 - パフォーマンス：Dance Box 企画「GUYS・水都大阪編」シンポジウム風ダンス～踊れ！熱い男の水掛け論～
- 18:30 - 19:30 交流会

セッション1・2 コーディネーター

金水 敏(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター長/同大学院文学研究科教授)

平田オリザ(劇作家/大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授)

北川フラム(アートディレクター/水都大阪2009プロデューサー)

予約・お問い合わせ先 水都大阪2009記念シンポジウム事務局(アートフロントギャラリー内)

TEL: 03 - 3476 - 4868 FAX: 03 - 3476 - 4874 Email: [suito@artfront.co.jp](mailto:suito@artfront.co.jp)

## 大阪大学フォーラム2009(クアラルンプール)

本学では、研究者の優れた研究活動を広く海外に発信するため、毎年、大阪大学フォーラムを開催しています。

第9回を迎える今年度は、マレーシア教育省の協力を得て、本学や東南アジア各国の研究者が、日本語・日本文化分野での研究・教育に関する講演や発表などを行います。

開催期間：11月3日(火)～4日(水)

開催場所：マレーシア教育省国際言語教員養成所(クアラルンプール)

International Languages Teacher Training Institute [IPBA]

テ - マ：東南アジアにおける日本語・日本文化教育の21世紀的展望

- 東南アジア諸国と日本との新たな教育研究ネットワークの構築を目指して -

The 21st Century Approach to Japanese Studies Programmes in Southeast Asia: Towards the Creation of a New Academic Network between Japan and Southeast Asia

開催内容：講演、研究発表、パネルディスカッション

主 催：大阪大学、マレーシア教育省

実行委員長：奥西峻介(日本語日本文化教育センター長)

ホームページ：<http://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/forum2009/index.html>

お問い合わせ：日本語日本文化教育センター共同研究室(フォーラム事務局)

電話/Fax: 072 - 730 - 5459 E-mail: [handai-forum2009@cjlc.osaka-u.ac.jp](mailto:handai-forum2009@cjlc.osaka-u.ac.jp)

(国際部国際交流課)

第41回大阪大学中之島講座秋季講座

統一テーマ 「近未来とどうつきあうか ~次世代社会の光と影~」

100年に一度あるかないかの経済不況の中、先人の叡智や最先端研究の成果をもとに、人としての生きる力をあらためてみつめてまいります。そして近未来社会の姿を明らかにし、人としてどう生きていくべきか、さらには科学技術とのよりよい関係を切り開いていきたいとの願いを込めて開講します。

今年の統一テーマは「近未来とどうつきあうか~次世代社会の光と影~」とし、そして、「(A) 人と社会~コミュニケーション力とデザイン力」、「(B) コンピュータ社会における人とロボット」という二つのサブテーマを設定しました。

鷲田清一総長、宮原秀夫前総長をはじめ、本学が誇る講師陣により現代の諸問題について皆様とともに考えていきたいと思えます。興味、関心のあるテーマを選ばれて是非受講の申し込みをいただきますよう心からお待ちしております。



大阪大学は、1968年に国立大学で最初の公開講座を実施しました。当初は「大阪大学開放講座」という名称で開講してきましたが、2004年に「大阪大学中之島講座」と名称を改め、今年で通算41年目を迎える市民のための講座です。

サブテーマ(A) 「人と社会 ~コミュニケーション力とデザイン力」

講義時間帯：18:30 ~ 20:00

講義日	区分	講義題目	講師
10月5日(月)	A-1	衣装とコミュニケーション力	理事・副学長 武田 佐知子
10月9日(金)	A-2	『弱い』ということの意味	総長 鷲田 清一
10月14日(水)	A-3	人を動かす ~コミュニケーション力+デザイン力	国際公共政策研究科・教授 野村 美明
10月16日(金)	A-4	あなたを守る『りすくまねじめんと』 ~コミュニケーション力×デザイン力	高等司法研究科・教授 池田 辰夫
10月21日(水)	A-5	江戸時代における大阪人のコミュニケーション力	CSCD・招へい教授 高島 幸次
10月23日(金)	A-6	大正・昭和初期における大阪人のデザイン力	総合学術博物館・教授 橋爪 節也
10月28日(水)	A-7	対話の時代のコミュニケーション教育	CSCD・教授 平田 オリザ

CSCD：コミュニケーションデザイン・センター

サブテーマ(B) 「コンピュータ社会における人とロボット」

講義時間帯：18:30 ~ 20:00 (注) 11月20日(金)のみ、15:00 ~ 16:30 です。

講義日	区分	講義題目	講師
11月6日(金)	B-1	ネット社会のセキュリティ	情報科学研究科・教授 藤原 融
11月11日(水)	B-2	ロボットに人を感じる ~ロボットは人にどこまで近づけるか~	基礎工学研究科・教授 石黒 浩
11月18日(水)	B-3	これからのロボット手術 ~ロボットは医者にどこまで近づけるか~	基礎工学研究科・准教授 西川 敦 医学系研究科・准教授 関本 貢嗣
11月20日(金) (*講義時間に注意)	B-4	情報化社会の光と影	(独)情報通信研究機構理事長 前総長 宮原 秀夫
11月25日(水)	B-5	夢の次世代通信	基礎工学研究科・教授 永妻 忠夫

**主催**

大阪大学 21 世紀懐徳堂

**会場**

大阪大学中之島センター 大阪市北区中之島 4 - 3 - 53  
 TEL 06 (6444) 2100 URL <http://www.onc.osaka-u.ac.jp>

**対象者及び定員**

対象：一般市民・学生

定員：各サブテーマ別 50 名【先着順】

定員になり次第、締切させていただきますので、ご了承ください。

**講習料（テキスト代及び消費税を含む。）**

・サブテーマ A（7 講義を全て受講する場合）	7,200 円
・サブテーマ B（5 講義を全て受講する場合）	6,200 円
・サブテーマ A 及び B の両方（12 講義を全て受講する場合）	8,200 円
・全 12 講義のうち 1 講義～数講義を選択受講する場合	1,500 円 / 1 講義当たり

\* 受付期間中に受講取消のお申し出があった場合は、所定の手続きにより、後日全額をご返金いたします。  
 但し、返還手続きに要する振込手数料については、ご本人様負担とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。  
 なお、受付期間終了後に受講取消のお申し出をされた場合は、ご返金することができませんので、ご了承ください。

**申込方法**

下記受付期間中に所定の「受講申込書」に必要事項をご記入のうえ、郵送、ファクシミリまたは E メールで送付願います。

E メールでお申し込みの方は、大阪大学 21 世紀懐徳堂ホームページから申込書をダウンロードしてください。  
 受講申込書の記載事項を確認したうえで、折り返し受講決定通知の連絡を電話もしくは E メールにて行います。

受講決定の連絡を受けた方は、下記に記載の受付期間内に、講習料を次の指定振込銀行口座へ受講者のご氏名で振込み願います。

なお、振込みによる手数料等については、ご本人様負担とさせていただきますので、ご了承ください。

口座名：三菱東京 UFJ 銀行 茨木支店 普通預金 1502217 オオサカダイガク コウホウ・シャガクレンケイジムシツ  
 口座名義：大阪大学 広報・社会学連携事務室

受付期間：

サブテーマ (A) 「人と社会～コミュニケーション力とデザイン力」	9 月 14 日(月)～ 9 月 25 日(金) 必着
サブテーマ (B) 「コンピュータ社会における人とロボット」	10 月 16 日(金)～ 10 月 23 日(金) 必着

(但し、各受付期間とも、土・日・祝祭日を除く平日のみ)

受講申込みについて、原則として各サブテーマ別に受付期間を設けますが、あらかじめ 2 サブテーマ両方(全 12 講義)を受講希望される方は、優先して事前に受付いたします。

先着順としておりますが、定員を超える場合は、サブテーマの全講義を受講される方を優先させていただきますのでご了承ください。

**受講証書**

サブテーマ A で 6 回以上、またはサブテーマ B で 4 回以上出席された方には、受講証書をサブテーマ別に交付いたします。

**お問い合わせ及びお申し込み先**

大阪大学 21 世紀懐徳堂 中之島講座担当

〒560-0043 豊中市待兼山町 1 - 16 TEL 06 (6850) 6443 FAX 06 (6850) 6449

E - mail : [info@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp](mailto:info@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp) ホームページ : <http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>

最先端の物理を高校生に  
Saturday Afternoon Physics 2009

- 日 時：10月24日、31日、11月7日、14日、21日、28日(土) 15:00～18:00  
場 所：大阪大学理学部大講義室(豊中キャンパス)  
主 催：大阪大学総合学術博物館湯川記念室  
共 催：大阪大学 大学院理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、大学教育実践センター、  
レーザーエネルギー学研究センター、核物理研究センター  
後 援：大阪府教育委員会、京都府教育委員会、奈良県教育委員会、兵庫県教育委員会、  
京都市教育委員会、日本物理教育学会近畿支部、大阪府高等学校理化教育研究会、  
朝日新聞社、大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター



最新の自然像を知ってほしい。そのような願いを込め、今年も「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2009 - 宇宙からの極微の世界まで - 」を開催します。一線で活躍する研究者による最先端の物理の分かり易い講義に様々な実験デモや展示もとりいれ、自然の謎を解き明かす物理を探索します。また、科学の知識と技術が私たちの社会にどのように生かされているかについても解説します。土曜の午後に6週間続く、内容ゆたかな、とても楽しい学校を目指します。好奇心旺盛な方々の参加をお待ちしています！

【授業構成】

授業は毎回3時間で、次の三部構成で行います。

- (1) 基幹講義：自然界の様々な世界を訪ねます
- (2) コーヒーブレイク：展示、交流、Q & A
- (3) 実践講義：ハイテクにおける物理、ゲーム、クイズ

11/7は、レーザーエネルギー学研究センター、核物理研究センター、工学研究科の最先端研究施設を見学します。

【募集対象】高校生(高校教職員、保護者のオブザーバー参加も歓迎します。)

【募集人数】200名

【参加費】無料

【申し込み】事前の申し込みが必要です。郵便・FAX・E-mail又はWebサイトでの申し込みが可能です。

氏名(フリガナ)、学校名、学年、住所と郵便番号、申し込みの動機、メールアドレスをお知らせ下さい。

詳しくはホームページ <http://www.yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/SAP/> をご覧ください。

【申し込み締め切り】9月30日(水)必着

問い合わせ先 大阪大学理学研究科内 湯川記念室(〒560-0043 豊中市待兼山町1-1)

FAX:06-6850-5341

E-mail:sap2009@phys.sci.osaka-u.ac.jp

件名:SAP2009 申し込み

(総合学術博物館湯川記念室)

平成21年度大阪大学大学院薬学研究科公開講座「くすり医療」

- 目 的**：2006年度から薬学部6年制が導入され、薬剤師、薬学研究者の専門的かつ幅広い知識が益々必要とされています。本講座では、「くすり医療」をテーマに、基礎から臨床までの最新の知見をもとに、現在の課題と将来への展望について、それぞれ最先端の分野で活躍する研究者が講述します。
- 日 時**：11月7日(土)、11月21日(土) 各日13:00～17:50
- 場 所**：大阪大学大学院薬学研究科2号館特別講義室
- 主 催**：大阪大学大学院薬学研究科

演題及び講師

11月7日(土)

- 13:00～14:30 『抗腫瘍活性希少天然物の機能を拓く精密合成化学』  
薬学研究科・准教授 好 光 健 彦
- 14:40～16:10 『必須栄養素と骨代謝の新たな接点』  
薬学研究科・講 師 伊 藤 徳 夫
- 16:20～17:50 『神経ペプチドPACAPの脳での機能 - 精神疾患との関連』  
薬学研究科・准教授 橋 本 均

11月21日(土)

- 13:00～14:30 『タンパク質の溶液構造にもとづく阻害剤探索』  
薬学研究科・准教授 大久保 忠 恭
- 14:40～16:10 『がんの分子標的治療創薬への期待』  
薬学研究科・准教授 辻 川 和 文
- 16:20～17:50 『PET分子イメージングの展開』  
医学系研究科・教 授 井 上 修

**対 象 者**：本講座は大阪大学に限らず広く薬学部卒業生、薬剤師（開局、勤務を問わない）、製薬企業勤務者等、薬に関する基礎知識を有する方が対象ですが、一般の方でも本講座に関心のある方の参加を歓迎します。  
なお、本講座は日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度対象講座及び大阪府病院薬剤師会（OHP）生涯研修制度認定対象講座です。

**受 講 料**：6,200円（申込後は受講料の返還はできません。）

**申 込 期 間**：9月24日(木)～10月23日(金)

**申 込 方 法**：受講料を下記の銀行口座に振り込み後、「納付証明書（銀行の窓口より口座振替する場合）」又は「ご利用明細（ATMより口座振込する場合）」と「受講申込書」を併せて、下記送付先へ郵送下さい。

「納付証明書」又は「ご利用明細」はコピーでも構いません。

現金持参又は現金書留でのお取り扱いはできません。

**振 込 口 座**：三菱東京UFJ銀行 茨木支店

普通預金 口座番号：1297750

口座名義：大阪大学薬学部（オオサカダイガクヤクガクブ）

ATMを利用される場合は（ココリツダイガクオオサカヤクガク）と表示されます。

詳しくは、大阪大学大学院薬学研究科ホームページ <http://www.phs.osaka-u.ac.jp/welcome.html> をご覧下さい。

**お問い合わせ先及び書類送付先**：大阪大学薬学研究科庶務係 TEL 06 - 6879 - 8144（直通）

〒565 - 0871 大阪府吹田市山田丘1 - 6

（薬学研究科・薬学部）

## 未来をひらく福澤諭吉展

幕末から明治の激動の時代にあって革新的な活動を展開し、日本の近代化に大きな足跡をのこした福澤諭吉（1835～1901）は、大阪と非常に関係の深い人物です。

福澤は、中津藩（大分県）の下級武士の子として、父の任地であった大坂に生まれました。早くに父を亡くし中津で育った福澤は、のち再び大坂に出て緒方洪庵の適塾に入門しました。蘭学を学びつつ、青春を謳歌した大坂での日々は福澤が世の中を見つめるまなざしを形づくりました。安政5年（1858）には、23歳の若さで江戸に蘭学塾（のちの慶應義塾）を開き、その後独学で英語を習得。欧米各国を訪問し、西洋文明を紹介する「西洋事情」や「学問のすゝめ」などを著しました。

本展覧会では、福澤の多方面にわたる活動をその遺品、書幅、書簡、自筆草稿、著書、およびその門下生たちが収集した美術コレクションなどを通して紹介します。また、福澤と大阪のゆかりについてもクローズアップします。

混迷の中で試行錯誤を重ねた福澤の姿は、現代社会が未来を開くヒントを与えてくれるでしょう。

【主催】大阪市立美術館、慶應義塾、産経新聞社

【後援】文化庁、関西経済連合会、大阪大学、朝日放送、関西テレビ放送、ラジオ大阪、サンケイスポーツ、夕刊フジ、サンケイリビング新聞社

会 期：8月4日（火）～9月6日（日）【月曜休館】

会 場：大阪市立美術館（天王寺公園内）

ホームページアドレス <http://www.city.osaka.lg.jp/museum/>

開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）

観 覧 料：一般1,200円（1,000円）、大学・高校生900円（700円）

カッコ内は、前売り・20名以上の団体料金

## 理系女性研究者ロールモデル・ランチオンセミナー

大阪大学では、平成19年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」プログラム「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」により、各種セミナーなどを行っております。

このたび、工学系で活躍しておられるお二人の女性研究者をお招きして、ロールモデル・ランチオンセミナー及び講師の先生を囲んでの懇談会を開催します。研究者を目指している大学院生の方や、将来のキャリアを考えている学部生の方、ぜひご来場ください。また、阪大では数少ない女性研究者の方も、ネットワークを広げる機会としてぜひご参加ください。

第1回 9月17日（木）

講師：赤井 恵 助教 工学研究科 精密科学・応用物理学専攻 精密科学講座 原子制御プロセス領域

第2回 9月25日（金）

講師：加賀有津子 教授 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 技術知マネジメント講座

各回とも下記の時間と場所で行います。

場 所：吹田地区材料開発物性記念館（建物番号：R4）研修室（2階）

時 間：12：00～13：00（～13：30まで延長あり）

昼食は各自でご準備ください。

問い合わせ先：女性研究者キャリア・デザインラボ

Tel：06 - 6879 - 4405 fax：06 - 6879 - 4406 E-mail：kyariadl@ns.jim.osaka-u.ac.jp

予定がおわかりの方は、開催1週間前までに、お申し込み頂けると有り難く存じます。

会場は30名まで可能ですので、飛び入りのご参加も可能です。

（女性研究者キャリア・デザインラボ）

## 附属図書館総合図書館に車椅子用階段昇降装置を設置

附属図書館総合図書館では、このほど車椅子用階段昇降装置を設置し、7月22日(水)から運用を開始しました。

総合図書館は、4回にわたる増改築を重ねており、建物の高層階部分に段差が生じていました。これまでもエレベーターの設置箇所を工夫するなどして、車椅子利用者の図書館利用にできるだけ支障が生じないようにしてきていましたが、場所によっては移動のためにかなり遠回りせざるを得ませんでした。今回、総合図書館A棟3階とB棟3階、A棟4階とB棟4階を結ぶ2箇所の階段部分に昇降装置を設置したことにより、このような不便が解消されるものと期待しています。

同装置は、車椅子1台用で180kgの重さまで対応が可能です。通常時は折りたたまれており、使用する時に乗車部分および手すり部分が展開されます。障害物を探知した場合には、自動的に停止する機能を備えており、昇降時の安全、周囲の安全にも配慮されたものになっています。

ご利用する際には、安全に配慮するため補助を受けて操作することになりますので、近くに設置されているインターホンで職員を呼び出してください。  
(附属図書館)



### 訂正とお詫び

阪大NOW No.111(2009年6月号)の掲載内容の一部に誤りがありましたので、下記のとおり訂正するとともにお詫びいたします。

- ・P41「表彰等」の『平成21年度文部科学大臣表彰』受賞』本文中
  - 2行目 (誤)小芦准教授 (正)佐藤特任准教授
  - 6行目 (誤)佐藤特任准教授 (正)小芦准教授

## ガイドマップ

### 「銀杏マーク」グッズに新製品登場!

本年3月8日に行われた関西学士会主催(3大学〔大阪大学・京都大学・九州大学〕共催)のシンポジウムでは、各大学のブースにおいてオリジナルグッズを展示しました。大阪大学のブースでは、大阪大学生協の協力を得て、現在の学章である銀杏マークをあしらった様々なものが展示され、お馴染みのものから、この日のために用意された銀杏マークを型抜きした羊羹やクッキーをはじめ、銀杏マークを浮かせさせた丹後ちりめんの風呂敷などが並び、特に大阪にちなんだものとして、大阪天満の職人による「天満切子」の阪大章入りグラスは、多くの参加者の目を引き、多くの問い合わせが寄せられました。

大阪大学ブランド向上の一環として、大阪大学生協、コクヨ株式会社、大阪大学の連携のもと、グッズの検討を進め、7月から新たな銀杏マークグッズ数点が生協各店舗において販売が開始され、学内はもとより学外の関係者にもご購入いただけるようになりました。特に、人気の天満切子については、生協吹田キャンパス本部前店舗内の新たにリニューアルされたフロアで、3種類のグラスがショーケースに展示、販売されています。



シンポでの阪大ブース



天満切子のショーケース

## バンコク赴任喜怒哀楽の2年間

国際部国際連携課海外拠点支援係  
(バンコク教育研究センター副センター長)

佐藤 真知子

こんにちは。2007年10月より大阪大学の海外3拠点(アメリカ、オランダ、タイ)のうちの1つ「バンコク教育研究センター」(以下、バンコクセンター)にて勤務しております佐藤と申します。2年間の赴任期間満了を目前に、再度、阪大NOWへ投稿できることを大変嬉しく思っております。前回(2008年6月号)はバンコク赴任をすることになったきっかけ、仕事内容を主に紹介させて頂きました。今回は、この2年間の赴任を振り返って仕事以外の休日のプライベートも含めたバンコク赴任の喜怒哀楽を皆様にお伝えできればと思います。



バンコクセンター近くのアソーク通り

### 喜

2年前の海外赴任が決まった緊張と喜びは覚め、最近になってようやくバンコクで働く本当の喜びを感じる事ができるようになった気がします。それは、少しずつ自分のしていることが人の役に立っていると感じる事ができてきたからです。

その1つは、大阪大学への留学をアドバイスした学生が無事に留学が決定し、タイを去る前に本センターへお礼の挨拶に来てくれたことです。留学手続き中の不安げな顔はどこへやら、日本へ留学できる喜びいっぱい「いろいろとありがとうございました。」と言ってくれた時の喜びは本当に気持ちのいいものです。まだまだ未来のある学生が、大阪大学で学び、日本(特に大阪)を好きになってくれ、また母国タイに戻り日本とタイを結び架け橋になってくれ



バンコクセンターのTV会議システムを使っての面接

たらと心から願います。

また、もう1例は外国語学部タイ語学科からタイ留学している日本人の学生が、留学して間もなくバンコクセンターにやってきた時のことです。きっと始まったばかりの留学生活で不安がいっぱいだったので。語学力不足で授業についていけないことやタイでの留学生活が本当に自分にプラスになっているのだろうかといった漠然とした悩みを語ってくれました。私は、自分の赴任直後の経験も踏まえて「まだ留学して1ヶ月も経っていないし、こうやってタイでタイ語を使って食事を注文したり、場所を聞いたり、それだけでも十分勉強になっているよ。」とアドバイスしたところ少し元気を取り戻してくれました。

私自身、これから自分がどんな方向性を持って仕事に取組んでいけばいいか悩んでいたころでもありましたので、これらの経験は自分が向きたい方向をなんとなく示唆してくれたように思います。

### 怒

日本では、いつも苛々として周囲に気を遣わせてばかりいた私も、2年を振り返って心底怒ったことはなかったように思えます。赴任当初はタイののんびりとした文化風習に驚かされました。以前から予定していたスケジュールは前日まで変更があることはしばしばですし、当日のプログラムもどんどん変わっていきます。よく言えば融通が利く、悪く言えば計画性がない。でも、それで怒りを感じたことはありません。それは、きっと自分がこの国では外国人であることを意識してこの国の文化風習をありのままを受け止めようと最初から心のどこかで覚悟があったからではと思います。最近では日本の融通のなさの方へ軽い怒りを感じる事が多くなってしまいました(笑)。

それから、「怒」を和らげてくれるもう1つの要素がタイ人の笑顔だと思います。写真は住んでいるアパートの事務管理をしている人との交流会でのものですが、この陽気で明るい笑顔に囲まれているとさっきまで悩んだりしてい



タイ人の陽気な笑顔(筆者左端)



たことがどこかへ消えていってしまいます。もちろんタイ人にも日本人と同じようにたくさん悩みはあります。でも、どこか日本人にはない無邪気な明るさがより楽しい毎日を運んで来てくれているのではないのでしょうか。

## 哀

バンコク赴任生活の哀しみはなんといいても、「同期、友人、家族がいない」ということです。特に赴任直後は週末、祝日も一緒に観光へ出かけたり、旅行へ行く人もいなく1人でガイドブック片手にバンコクの街を歩いたり、隣国へ旅行へ行ったりしていました。また、仕事でストレスがたまって（先ほど「怒」は感じないと書きましたが、もちろん仕事のストレスはどこの国で働こうともあります！！）週末に同期と一緒にお酒を飲みながら愚痴をこぼす事もできず1人部屋でお酒を飲んでいた哀しい週末もありました。時には、寂しさに耐え切れず日本の家族に毎日のように電話した時期もありました。1人で過ごすのが好きな人にとってはこの上ない環境なのではないでしょうか、私のようにそうではない人間にとっては海外の小さな事務所で心許せる人なく過ごす毎日は耐え切れぬものがありました。



タイ語学校の仲間

そんな中で、最初の友人を作るきっかけとなったのがタイ語学校です。タイ語でタイ語を教える UTL (Unity Thai Language School) という学校です。タイ語の挨拶さえしない初心者先生はタイ語（時には英語まじり）でどんどん授業を進めていきます。しかも生徒は、韓国、シンガポール、アメリカ、スウェーデン、日本となかなか多彩なメンバーでした。タイ人以外の外国人とタイ語で話を面白い体験をするうちにお昼を一緒に食べたりするようになり少しずつ友達ができきました。今ではもうこの学校へは行っていませんが、この時の出会いがきっかけとなり今でもご飯を一緒に食べに行ったりしています。

海外赴任するにあたり英語の基礎が身につけていることは必要だとは思いますが、しかし、英語圏以外の国で働くにあたっては片言でもいいからその国の言葉を学ぶことが大切だと実感しています。仕事上でも、少しでもタイ語が話せるとより仲良くなれますし、どんな下手なタイ語でもこちらが話そうとすれば大笑いされながらも受けとめてくれますから。

大阪大学の留学生の割合をみると約8割がアジアからの留学生です。大学の国際化という中で英語を共通語としていくことは大切かと思えます。しかし、これだけアジアからの留学生が多いならば主だった国の言葉を得意とする教職員がいればどれだけ留学生は安心して学生生活を送ることができるのでしょうか。外国語学部のタイ語学科の生徒がバンコクセンターに相談に来るように、大阪大学の中にも留学生の息抜きができる場所を作って行くことが留学してみたい大阪大学にしていくことに繋がっていくのかもしれないと感じています。

## 楽

赴任生活で楽しいことと言えば、やはりタイでの駐在を活かしたタイ国内、隣国への旅行です。この2年間で行った隣国での旅行の中で思い出深かったネパール旅行について最後にふれて楽しくこの記事を終えたいと思います。

ネパールへはバンコクから3時間のフライトで行くことが出来ます。日本から行くことを考えるとどうしてもエベレストを赴任中に見ておこうと思ひ友達と一緒にツアーに参加しました。旅行期間4日間の間にエベレストが見えたことはとても幸運なことでした。遊覧飛行しながらエベレスト山系を見るのですが、操縦士も「今日は晴れていてすごくラッキーだよ。」と言っていました。ネパールはまだまだ発展途上国です。計画停電を行っているので5つ星ホテルでさえシャワーや電気を使うことのできる時間が限られています。道路は首都のカトマンズでさえ舗装されていないところが多く、街は砂埃があふれマスクをつけている人が目に付きました。その反面、ポカラのような田舎にいくと雄大な山と高い空が広がり新鮮な空気が吸えます。ここでもホテルでトイレの水が止まらなくなったりとハプニングがありましたが、チベット仏教の影響しているお寺など見ることもでき、また新しい文化を知ることができた貴重な旅でした。



飛行機から見たエベレスト



のどかなポカラの風景

バンコク赴任で印象に残っていることを中心に書いてきましたが、赴任生活の喜怒哀楽を少しでもお伝えすることができたでしょうか。常夏のバンコクで毎週末ビーチ三昧と思われている方もいらっしゃるかもしれませんが、衣食住の文化の違いだけでも精神的ストレスは大きなものがありました。それでも、私はバンコクで2年間働かせて頂けたことに本当に感謝しています。見えなかったものが見えるようになった気がしています。最後になりましたが、ここで勤務が長くなるにつれてどれだけ多くの方がこの勤務を支えて下さっているかが身にしみてわかるようになってきました。この場を借りてお礼申し上げたいと思います。そして、そのことに感謝し日本帰国後も赴任経験を日々の仕事の中で役立てていけたらと思っています。

この記事を通してバンコクセンターに興味を持たれた方、アドバイス、ご質問などございましたら admin-bkk@hpc.cmc.osaka-u.ac.jp までお気軽にメールをいただければと思います。また、出張等でバンコクへ来られた方は是非バンコクセンターにお立ち寄り下さい。皆様のお越しをお待ちしております。

# バ利亚ドリード大学(スペイン)

Universidad de Valladolid



Universidad de Valladolid

バ利亚ドリード大学の起源は、1208年から1241年の間にパレンシアに創立された総合学院がバ利亚ドリードに移転されたことに遡ることができます。総合学院の時代を考慮すると、バ利亚ドリード大学は、スペイン最古の大学サラマンカ大学よりも古い教育機関となります。16世紀には、サラマンカ大学、アルカラ大学(現マドリッド・コンプルテンセ大学)とともに三大主要大学に指定され、なかでも法学部と医学部が重要学部として大きな評価を受けていました。15世紀末にメンドーサ枢機卿により創立されたサンタ・クルス学寮は、スペインの中央行政や法曹界を担う優秀な人材を数多く輩出してスペイン全土にその名声を馳せました。

このような誇るべき歴史と伝統をもつバ利亚ドリード大学は、現在、バ利亚ドリード、パレンシア、セゴビアおよびソリアにキャンパスをもち、バ利亚ドリードには法学部、医学部、文学部、理学部、経済学部、教育学部、パレンシアには労働学部、セゴビアには社会コミュニケーション学部、ソリアには翻訳・通訳学部が開設されています。これら9学部に加え、学部同等の種々の高等専門学校(建築高等専門学校、情報工学高等専門学校、農業高等専門学校な



ど)や専門学校(看護学校、物理療法学校、)が各キャンパスに分散設置され、部局数は合計25を数えます。大学が授与する学位は、学士号が100分野以上、修士号が43分野、博士号が25分野に及び、学生数は約3万人、教員数2,000人以上、職員数約1,000人を数え、その陣容はスペインの最も重要な高等教育機関のうちの一つに相応しいものとなっています。

全学協定校であるバ利亚ドリード大学は、大阪外国語大学の時代からの協定校であり、すでに30年以上の交流実績があります。現時点では、主に外国語学部の学生が文学部および附属言語センター(外国人コース)に留学しています。バ利亚ドリード大学との交流が文字通り全学規模で進展することを切望します。

ホームページ : <http://www.uva.es/>



## 編集後記

「水〜っ都!大阪大学」というキャッチフレーズで今年も大阪大学は天神祭船渡御に参加しました。歴史あるこの祭への参加も5回目となり、今年はコミュニケーションロボット wakamaru が乗船し大阪締めを行うなど話題となりました。

このように水との縁が深い大阪では9月22日から10月12日の間「水都大阪2009」が開催され、9月22日には大阪大学主催でのシンポジウムも開催されます。また、本号

のクローズアップで紹介した「学びの場」「創造の場」「発想の場」であるラーニング・commonsの源流ともいえる適塾では、水都大阪2009の開催期間中「水都アート回廊」の会場の一つとして、今村源氏の「苺的熟考」が展示されています。今年の阪大NOW表紙を飾っている適塾がどのようにアートと融合しているか、是非ご確認下さい。

(瀬尾)

## アメリカンフットボール部

すべてを勝ち取る三叉槍（トライデンツ）

### HERCULES × GAMBLERS=TRIDENTS

アメフトチームにはそれぞれ愛称があります。私たちの愛称は「トライデンツ（ポセイドンの持つ三叉槍）」です。大阪大学と大阪外国語大学の統合に伴い、昨シーズンより大阪大学ハーキュリーズと大阪外国語大学ギャングラズが合併してできた誕生間もないチームです。

昨シーズンはプレーオフを制し、2部リーグで優勝を果たしました。日本で1,2を争う強豪立命館大学や、関西学院大学が所属する1部リーグにあと一步のところまできています。今年こそはその1部リーグに昇格すべく毎日厳しい練習に取り組んでいます。

### アメリカンフットボールの魅力

アメフトに馴染みのない方も多いかと思いますが、アメフトは全米で人気No.1のスポーツであり、日本でも大学日本一を決める「甲子園ボウル」では毎年万単位の観衆が球場に詰め掛けます。

アメフトの魅力は完全分業制にあると言われます。アメフトではポジションごとに役割が明確に分かれており、最



前線で激しくぶつかり合うラインや、ボールを持って走るランニングバック、パスキャッチを専門とするレシーバー等、実に多くのポジションがありそれぞれ求められる能力が異なり、大学からはじめても十分トップクラスの選手になれる。

ボールを投げるのが得意、体が大きい、足が速いなどひとつでも得意なことがある人はアメフトの素質十分といえます。

また現在女性スタッフも18人います。テーピングを担当するトレーナー、相手チームの分析を行うアナライジング、栄養管理をするニュートリション、チームの宣伝、広報担当するPRなど役割があります。他にもコーチやOBさんなど多くの方がチームに協力してくれており、全員で1部昇格を目指しています。



主将 杉本桂太郎(歯4年)

コメント  
去年よりも厳しい戦いになると思いますが、その分周りの期待も大きいと思います。去年以上の成績が残せるよう頑張ります。



練習場所：豊中グラウンド

練習日時：平日(火・水・木) 17:00 ~ 土日 10:00 ~

部員数：88名

連絡先：丸岡慶士(主務)

080 - 3849 - 5396

tridents@softbank.ne.jp

HPURL <http://www.tridents.jp/>

トピックス

## 「阪大船」今年も天神祭船渡御に出船



7月25日(土)、今年で5回目となる阪大船は、水の都大阪をすいすいと渡り、荒波をかきわけて邁進することをイメージし、「水っ都！大阪大学」を旗印に掲げ、無事出船しました。

本年はあいにくの天気で、出船前には、乗船されるお客様やスタッフ一同が心配しながら曇天の空を見上げていましたが、全員の祈りが通じ出船時には雨も上がり、心地よい大川の水面の涼風にあたりながらの船出となりました。



本年は、本学との共同研究により、三菱重工が開発したコミュニケーションロボット wakamaru 君が、京都の平安装束体験所の福呂一榮先生の協力を得て、本学外国語学部学生が制作した牛若丸の装束（水干）をまとい、船渡御の御迎人形として乗船しました。wakamaru 君は、行き交う船に手を振って挨拶をしたり、乗船客とともに大阪締めを行ったりし、大いに注目を集めました。

(企画部広報・社会学連携事務室)

阪大 NOW No.112 2009 8月号

2009年8月20日発行

編集・発行 大阪大学企画部広報・社会学連携事務室 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1  
TEL: 06 (6879) 7017 FAX: 06 (6879) 7156  
ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp/>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせ、記事の提供等がありましたら、下記までお寄せ下さい。  
E-mail: [kikousyagakukouhou@ns.jim.osaka-u.ac.jp](mailto:kikousyagakukouhou@ns.jim.osaka-u.ac.jp)